

データで見る岡山の今・未来

まちづくりワークショップ 参考データ集

[目次]

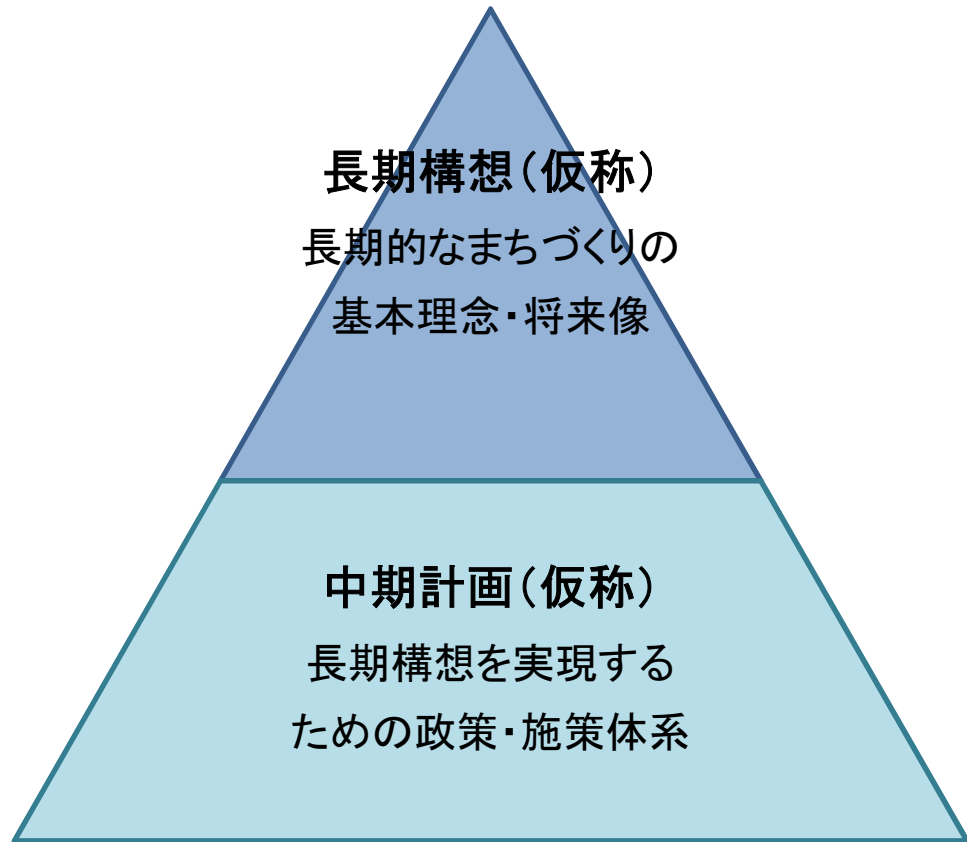
○新たな総合計画の構成と計画期間	・・・P1
○岡山市のプロフィール	・・・P2～
○人口	・・・P6～
○健康・医療・福祉	・・・P12～
○都市・交通	・・・P15～
○環境	・・・P23～
○産業・経済、観光・交流、農業	・・・P25～
○子ども、女性、教育	・・・P31～
○市民協働、ESD、国際交流、安全・安心	・・・P37～
○行財政運営	・・・P46～

岡山市政策局総合計画課



【計画の構成】

【計画期間】



岡山市のプロフィール(人口、世帯、面積)



□人口 715,776人(平成27年6月1日 岡山県毎月流動人口調査)

- ・平成22年度の国勢調査時点で、709,584人
- ・人口増加率(H17~22)1.93%は中四国主要都市の中で最も高い(参考)広島市1.69、倉敷市1.31

□世帯 316,146世帯(平成27年5月末)

□面積 789.92km²

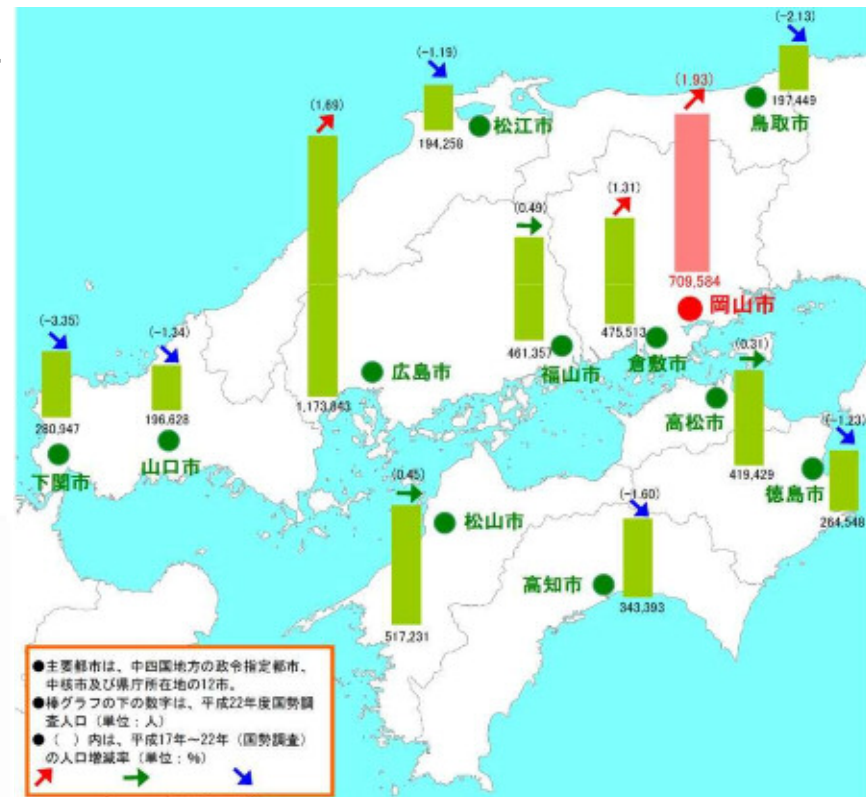
- ・東端から西端までの長さ 35.1 Km
- ・南端から北端までの長さ 47.8Km

□土地利用の概況

- ・全市域面積の約78%を山林や農地等の自然的な土地利用が占める



中四国主要都市の人口と増減率



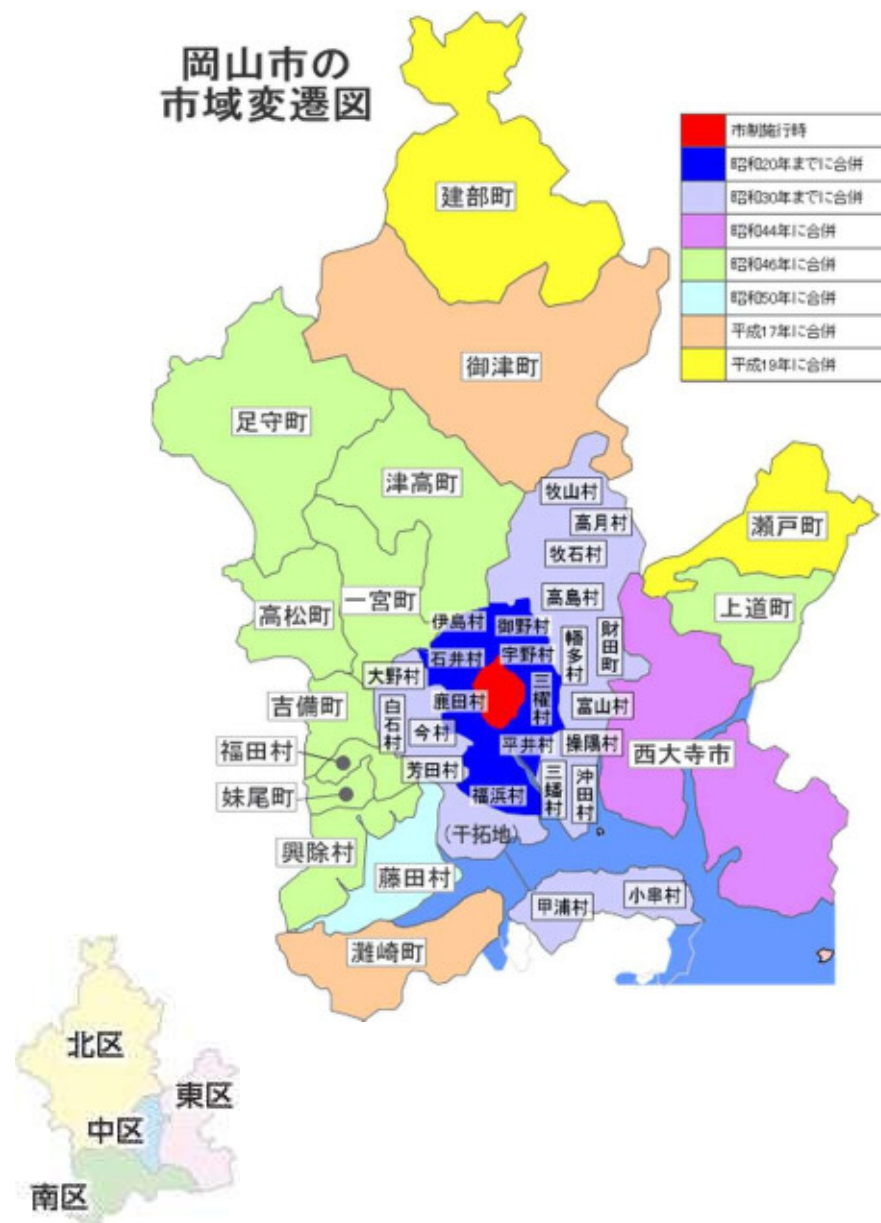
資料:平成22年国勢調査

〇市域の変遷

- ・明治22年の市制施行以来、13回にわたる周辺市町村との合併
- ・特に昭和44年の西大寺市との合併、46年の9町村(一宮町、津高町、高松町、吉備町、妹尾町、福田村、上道町、興除村、足守町)との合併、50年5月の藤田村との合併によって飛躍的に広がる
- ・さらに平成17年3月には御津町、灘崎町と、平成19年1月には建部町、瀬戸町と合併し、現在の市域面積は789.92平方キロメートル、旧備前国、備中国、美作国3カ国にまたがる広大な市域となった

(平成21年4月に全国で18番目の指定都市に移行。北区、中区、東区、南区の4区を設置)

岡山市の市域変遷図



□地勢

- ・旭川と吉井川が瀬戸内海に注ぐ岡山平野の中央に位置
- ・南部は地味豊かな沃野、北部は吉備高原の山並み

□気候

- ・温暖な瀬戸内海特有の風土
- ・快晴の日が多く、台風や雪の影響が少ない

□晴れの国おかやま

降水量1ミリ未満の日が日本一多い

□少ない地震

過去50年間の地震回数は全国平均の3,176回と比べ、778回と少ない

□良質な水

- ・水量豊富な河川が市内を流れ、水不足の心配がほとんどない
- ・岡山市の水道水は、安全でおいしい水として知られている

□特産品

- ・白桃、マスカットなどの果物(フルーツ王国・岡山)
- ・鱈、ままかりなどの瀬戸内の新鮮な海の幸

降水量1mm未満の日の年平均値(1981-2010)



気象庁HPより

過去50年間(1963-2012)の地震回数



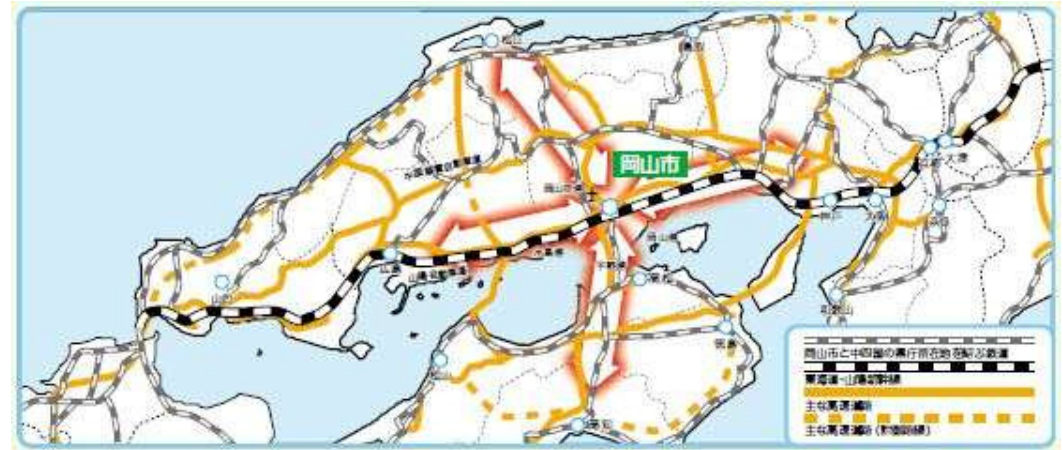
気象庁HPより



～中四国のクロスポイント～

□鉄道

- ・JR岡山駅には、すべての新幹線が停車し、東京、名古屋、大阪、福岡等の主要都市からのアクセスに優れる
- ・在来線は7路線が乗り入れ、四国、山陰への玄関口



□空路

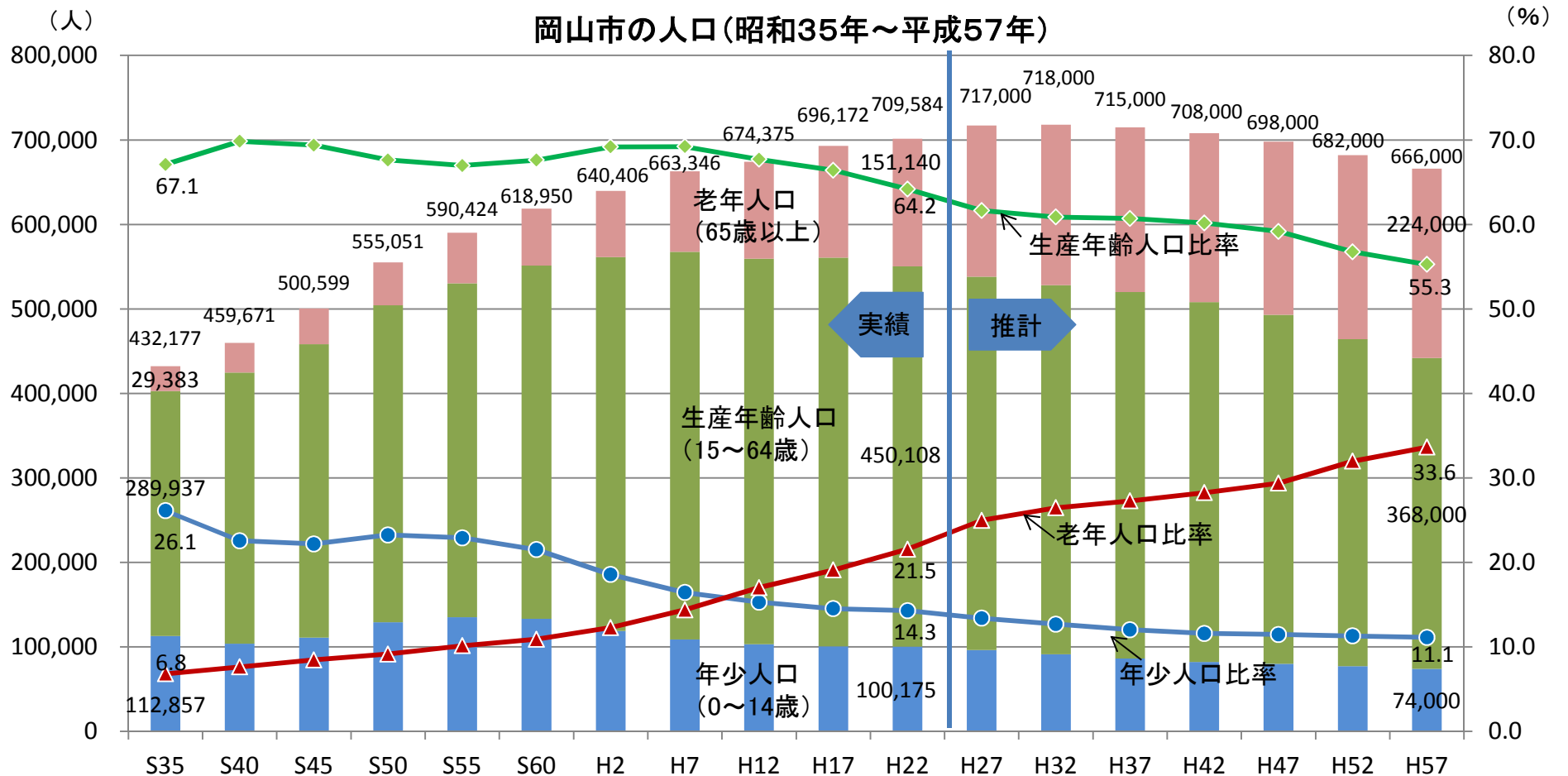
- ・国内3路線(東京、札幌、那覇)
- ・国際2路線(ソウル、上海)
- ・市中心部から空港までは車で25分の距離
- ・無料駐車場2, 889台

□高速道路

- ・西日本を東西に貫く山陽自動車道と、日本海から太平洋に至る中国横断自動車道・瀬戸中央自動車道が交差

岡山市の人口推移と将来推計人口

- 平成57年には平成7年と同水準の666,000人となり、平成22年から6.1%減少する。その間、少子・高齢化は確実に進行し、年齢構造は過去とは大きく異なるものとなる。
- 年少人口は、平成22年の100,175人(14.3%)から、平成57年には74,000人(11.1%)となり、3.2ポイント低下する。
- 生産年齢人口は平成22年の450,108人(64.2%)から、平成57年には368,000人(55.3%)となり、8.9ポイント低下する。
- 老年人口は、平成22年の151,140人(21.5%)から、平成57年には224,000人(33.6%)となり、12.1ポイント上昇する。

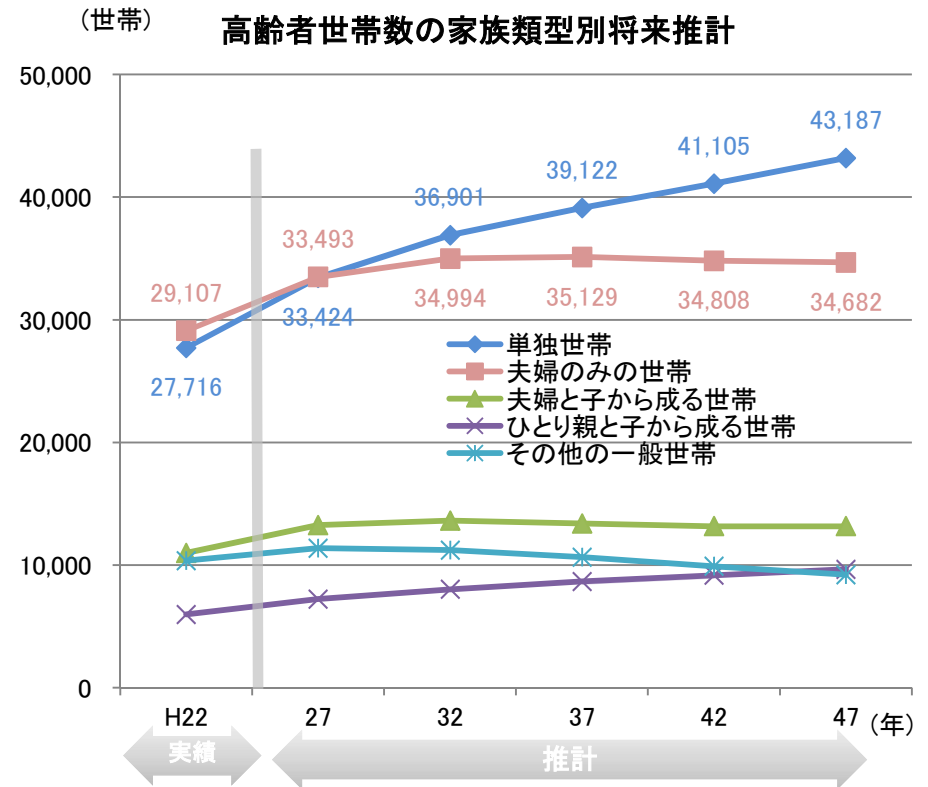
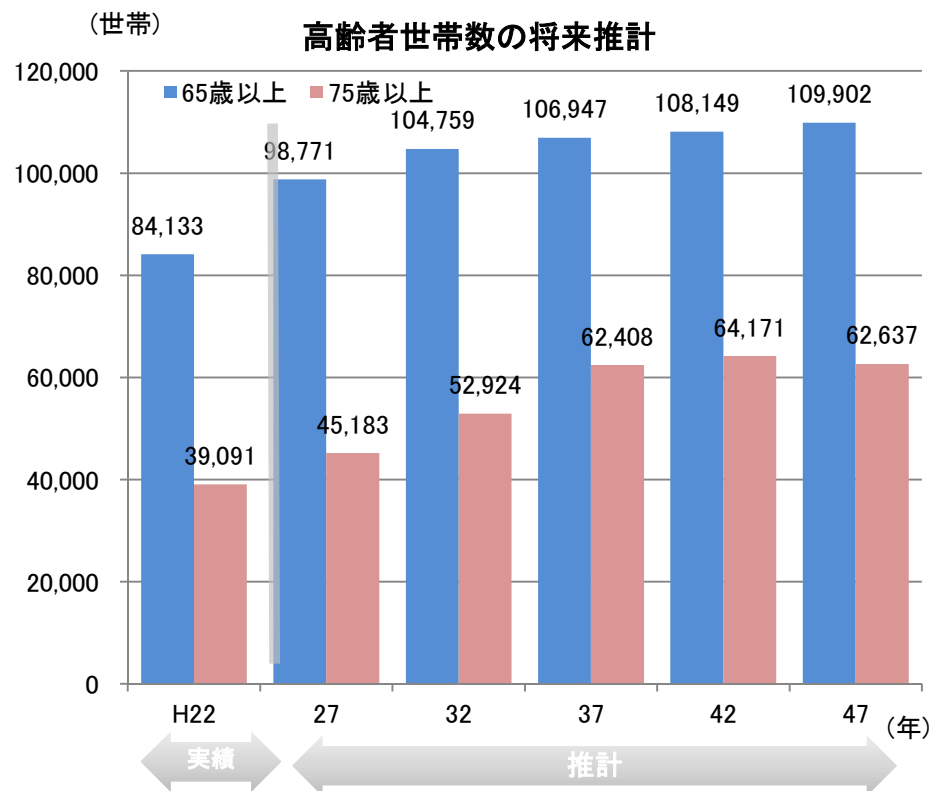


※国勢調査の総数には年齢「不詳」を含む。ただし、構成比は年齢「不詳」を除いて算出。

資料：S35～H22は総務省国勢調査、H27～57は岡山市推計

岡山市における高齢者世帯数の将来推計

○世帯主の年齢65歳以上の高齢者世帯は、平成47年まで増加する見込み。また、このうち世帯主の年齢75歳以上の世帯は、平成42年まで増加し、その後減少する見込み。
 ○家族類型別にみると、現在最多の夫婦のみの世帯は、平成32年まで増加し、その後はほぼ横ばいになる見込み。これに対し、単独世帯は平成47年まで着実に増加する見込み。

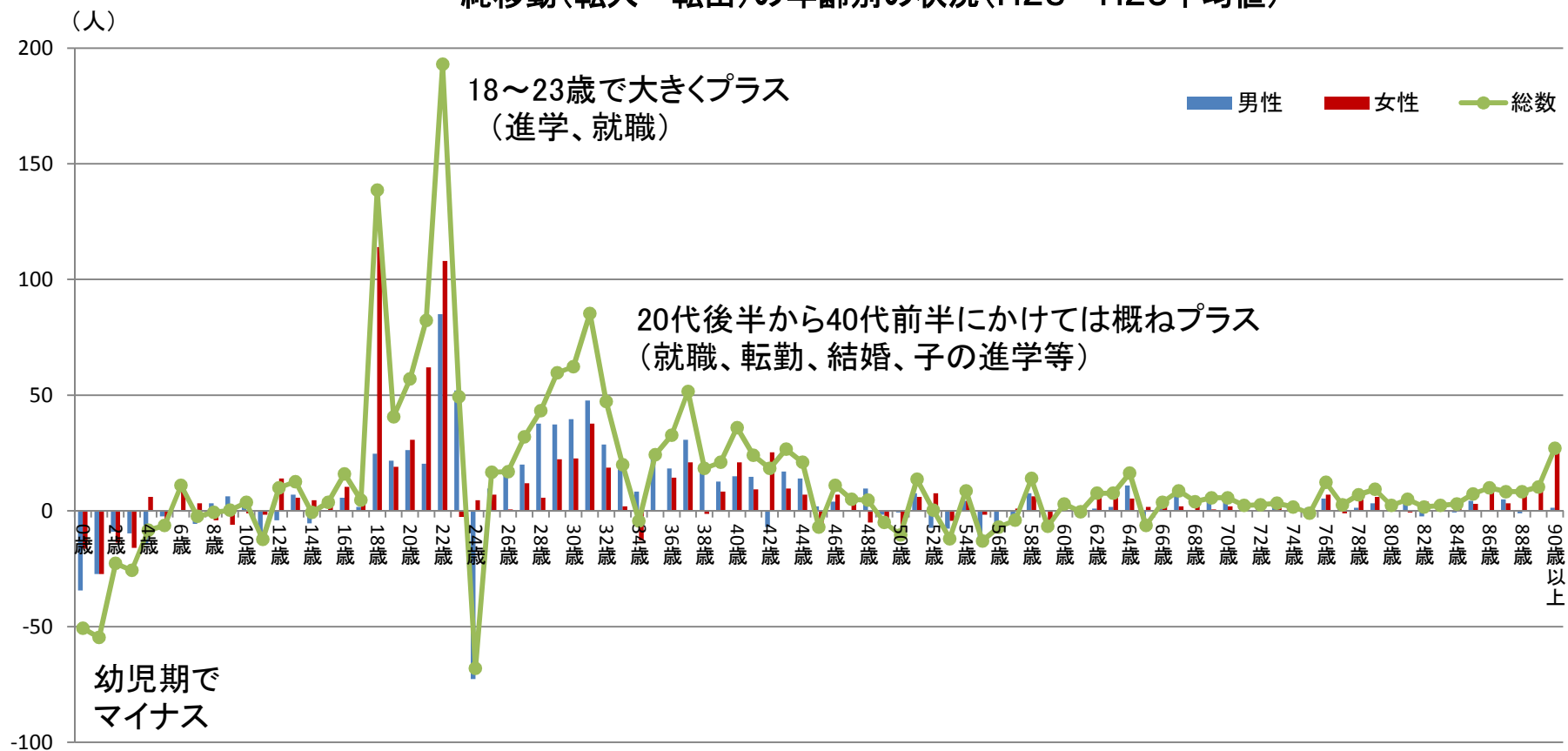


岡山市の社会動態 -純移動の年代別の状況-



- 大学等への進学から卒業・就職の時期に当たる、18～23歳に純移動は大きくプラス(転入超過)となっている。
- 就職、転勤、結婚、子の進学などのライフステージの節目が続く、20代後半から40代前半にかけては、純移動は概ねプラス(転入超過)である。

純移動(転入－転出)の年齢別の状況(H23～H25平均値)

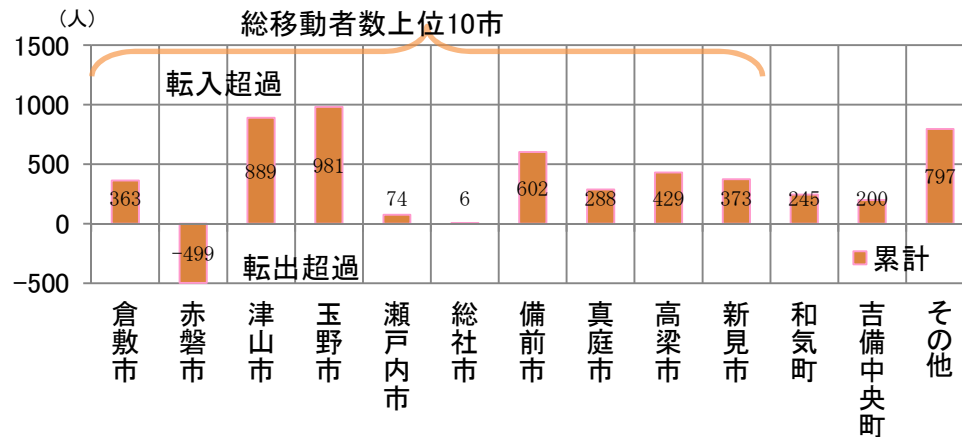


資料:総務省 住民基本台帳人口移動報告(年報)

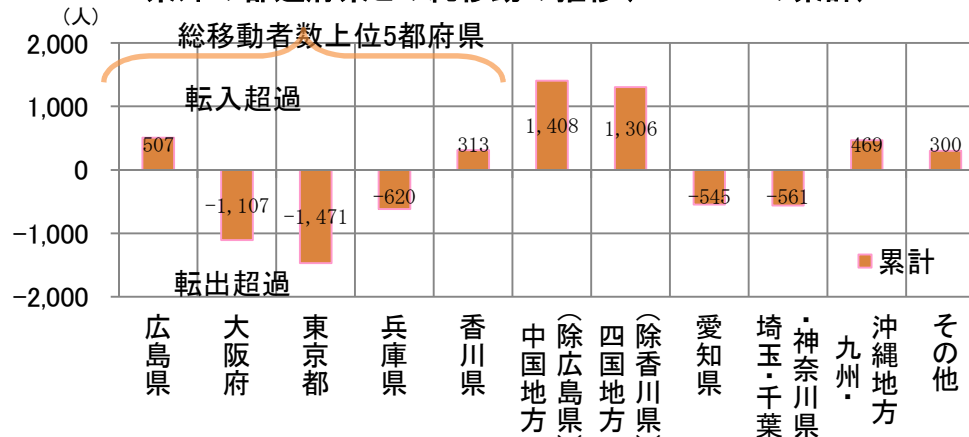
岡山市の社会動態 -純移動の他地域との状況-

○県内移動の状況を見ると、県内は、ほとんどの市町村からの純移動がプラス(転入超過)となっている。また、県外は、中国・四国地方からの純移動がプラス(転入超過)となっており、東京圏や大阪圏に対して、純移動がマイナス(転出超過)となっている。 ※東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県合計)、大阪圏(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県合計)

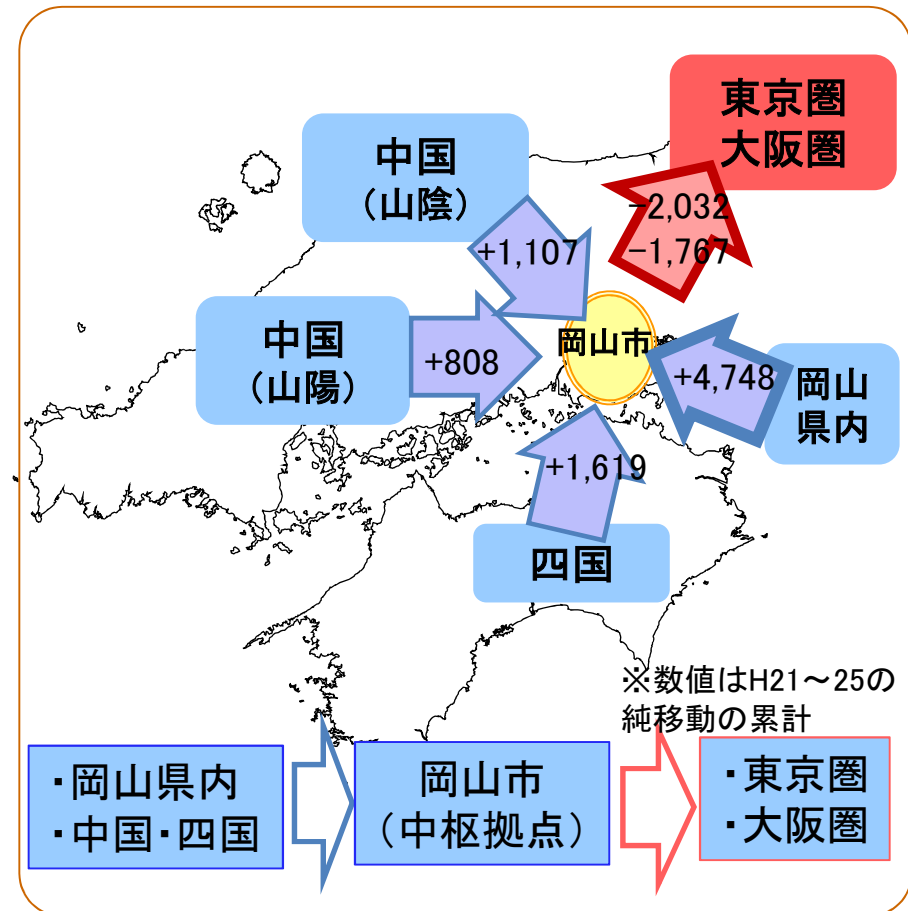
県内の市町村との純移動の推移(H21~25の累計)



県外の都道府県との純移動の推移(H21~25の累計)



岡山市の人口移動の構図



注:データは前年10月~同年9月、日本人のみ

資料:岡山市「岡山市の統計」ただし、平成25年は岡山県「岡山県の人口の動き-岡山県毎月流動人口調査」

岡山のブランド力、移住先としての岡山



○2014年調査の「認知度」は、2013年調査の41位から27位と大きく改善したが、「魅力度」は38位、「愛着度」は32位と、低迷している。

○東日本大震災以降、移住希望先としての岡山の順位が高まっている。

岡山の「ブランド力」(都道府県別)

「認知度」		「魅力度」		「愛着度」	
順位	都道府県	順位	都道府県	順位	都道府県
2014:2013		2014:2013		2014:2013	
1 : (1)	東京	1 : (1)	北海道	1 : (1)	北海道
2 : (4)	京都	2 : (2)	京都	2 : (2)	京都
3 : (2)	北海道	3 : (3)	沖縄	3 : (5)	福岡
11 : (16)	広島	21 : (19)	広島	9 : (17)	広島
27 : (41)	岡山	26 : (25)	香川	26 : (25)	愛媛
27 : (36)	山口	26 : (33)	島根	28 : (23)	島根
32 : (24)	香川	31 : (34)	愛媛	30 : (15)	高知
37 : (31)	愛媛	33 : (27)	高知	32 : (42)	岡山
38 : (43)	島根	34 : (39)	山口	33 : (35)	徳島
40 : (27)	鳥取	36 : (41)	鳥取	36 : (38)	香川
45 : (45)	高知	38 : (35)	岡山	40 : (37)	山口
47 : (47)	徳島	43 : (43)	徳島	44 : (44)	鳥取

資料：地域ブランド調査2014

- 調査対象：20歳代～60歳代
- 調査方法：インターネット調査
- 回答者数：31,433人
- (※一人あたり20地域を回答)

移住希望先としての岡山(都道府県別)

	2010 (N=775)	2012 (N=1017)	2014 (N=2885)
順位	都道府県	都道府県	都道府県
1	福島	長野	山梨
2	長野	岡山	長野
3	千葉	福島	岡山
4	岩手	香川	福島
5	山形	千葉	新潟
6	茨城	島根	熊本
7	宮城	大分	静岡
8	山梨	鳥取	鳥取
9	静岡	宮崎	富山
10	宮崎	和歌山	香川

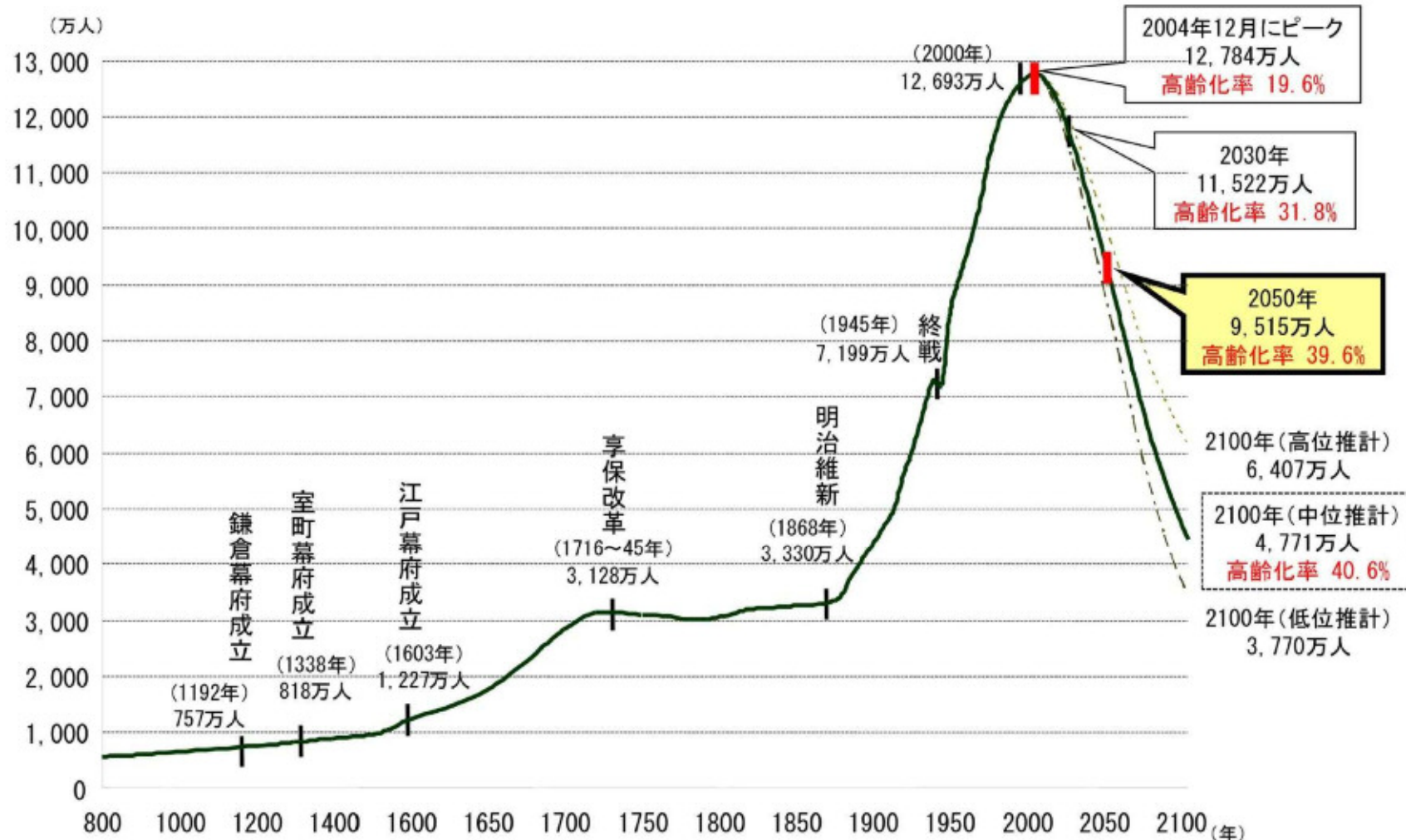
※岡山県は圏外

資料：ふるさと暮らし希望地域ランキング(各年)

- 調査対象：ふるさと暮らし情報センター(東京)利用者
- 調査方法：会場調査(移住相談者、セミナー参加者等)

(参考) 我が国における総人口の長期的推移

○ 我が国の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく。この変化は、千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。

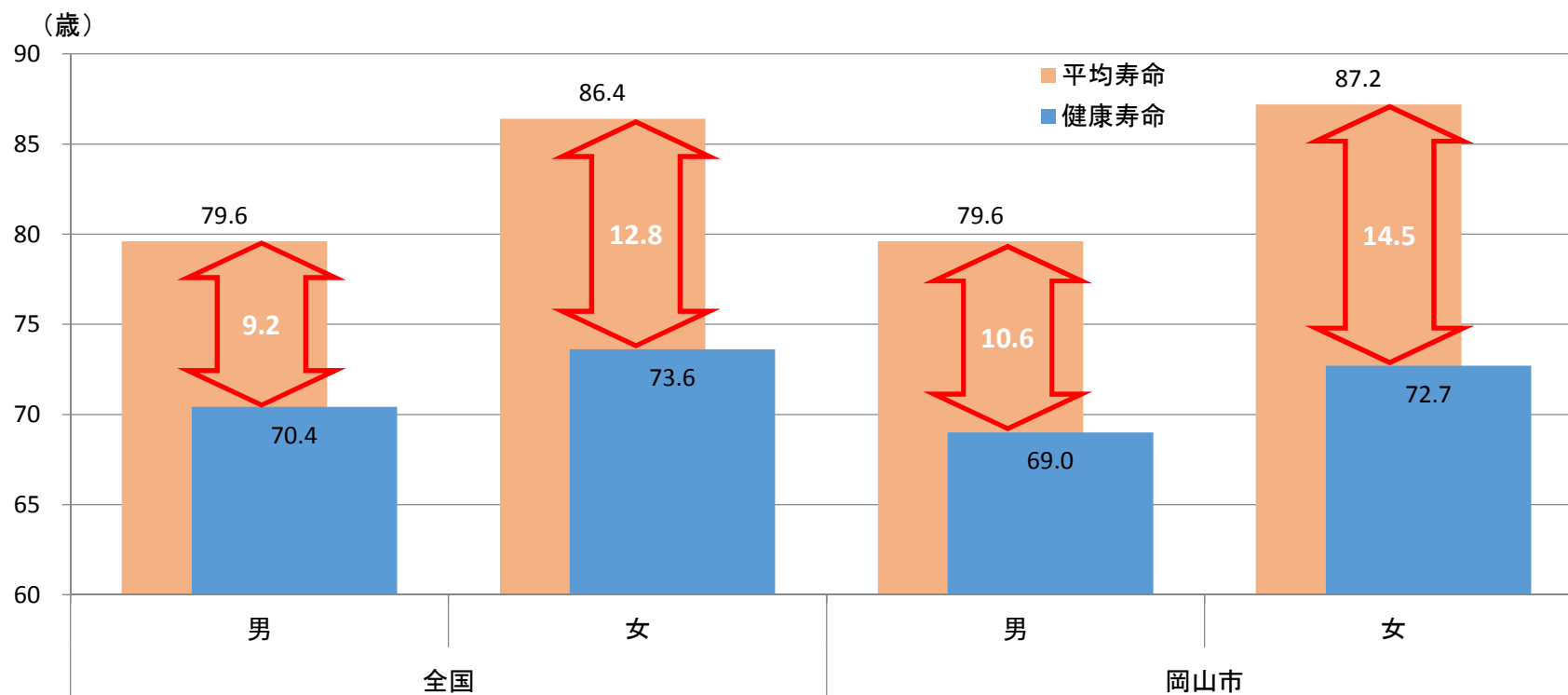


出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

岡山市の平均寿命と健康寿命

○岡山市の平均寿命は、男性(79.6歳)は全国と同水準であり、女性の平均寿命(87.2歳)は、全国(86.4歳)よりも上回っている。

○岡山市の男性の健康寿命(69.0歳)と女性の健康寿命(72.7歳)は全国のそれよりも短く、平均寿命との差が大きい。



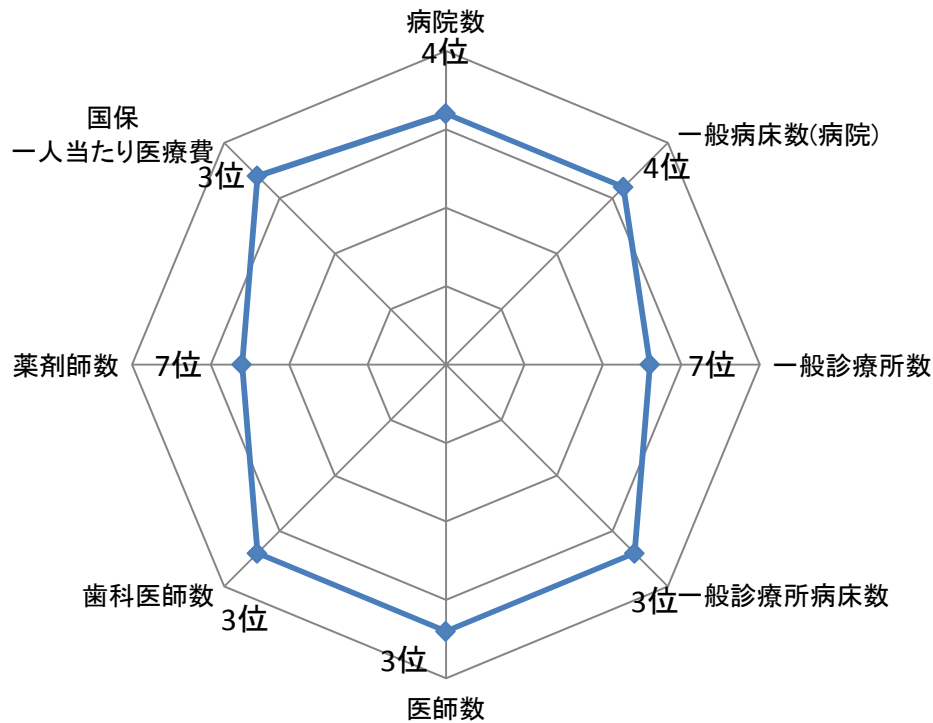
資料:厚生労働省「市区町村別生命表(H22)」、厚生労働省研究班「健康寿命の指標化に関する研究(平成25年度分担研究報告書)」

※健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のこと(WHO)

指定都市における医療資源比較

- 医療資源は人口10万人当たり一般病床数(ベッド数)で4位、同医師数で3位など、指定都市の中でも充実している。
- 国保一人当たり医療費は指定都市の中で3位と高い。
- 岡山市内には多くの医療機関が集積しており、特に岡山大学病院は世界初となる脳死・生体肺移植に成功するなど、最先端の医療を提供している。

人口10万人当たり医療資源に関する本市の順位



岡山市内病院マップ



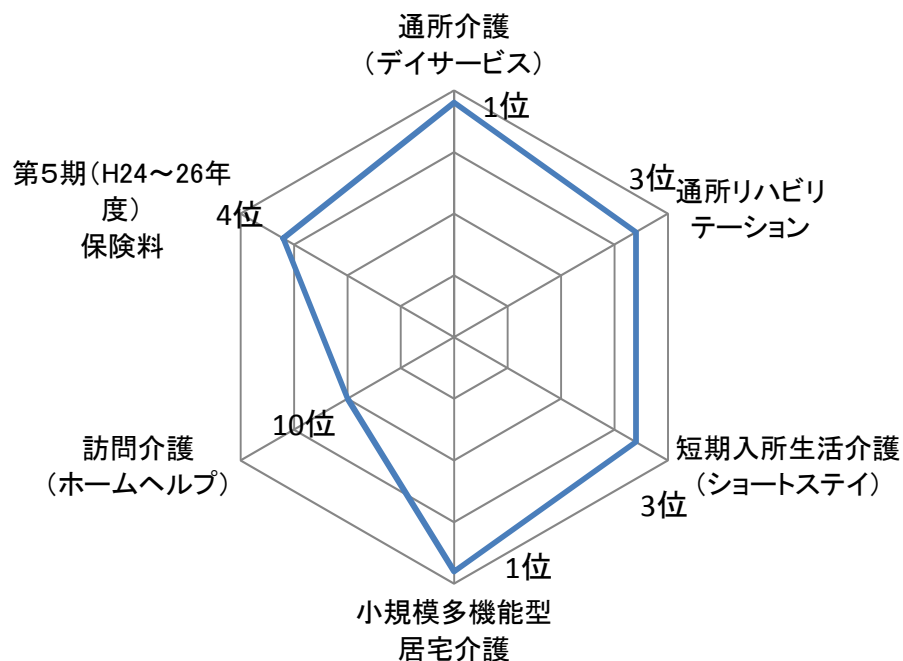
資料:医療費:厚生労働省「医療費の地域差分析(H24)」
 病院数、一般病床数(病院)、一般診療所数、一般診療所病床数、歯科診療所数:
 厚生労働省「医療施設調査(H25)」、総務省「国勢調査(H22)」をもとに作成
 医師数、薬剤師数:厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査(H24)」、
 総務省「国勢調査(H22)」をもとに作成

資料:岡山市作成 医療都市パンフレット

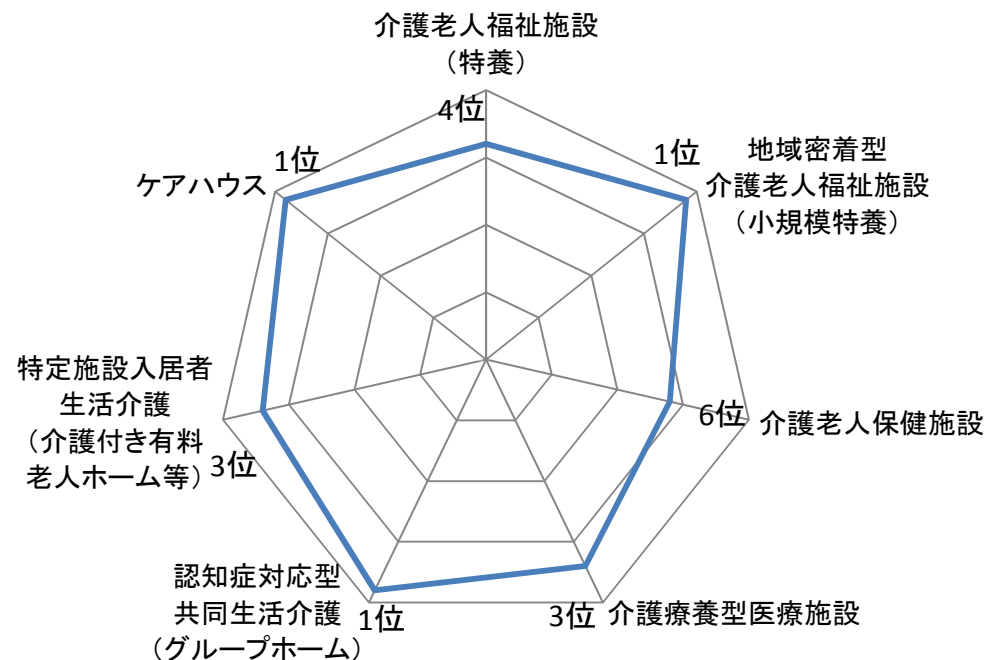
指定都市における介護資源比較

- 在宅系サービス事業所数(人口1万人当たり)は、通所介護1位、通所リハビリテーション3位、小規模多機能1位と、充実している。
- 施設系サービス事業所数(人口1万人当たり)は、小規模特別養護老人ホーム1位、グループホーム1位と、充実している。
- 第5期(H24~26年度)介護保険料基準額は指定都市の中で4番目に高い。

主な在宅系サービス事業所数 本市の順位
(高齢者(第1号被保険者)1万人あたり)

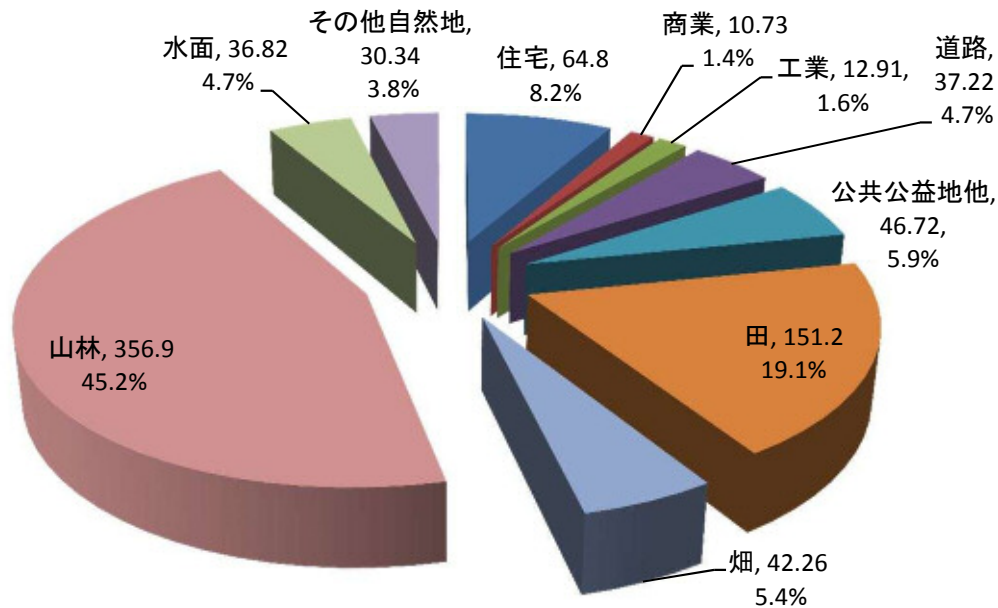


主な施設系サービス事業所数 本市の順位
(高齢者(第1号被保険者)1万人あたり)



- 全市域面積の約78%を山林や農地等の自然的土地利用が占める。
- 市域全体の約74%が都市計画区域に指定され、そのうち約13%が市街化区域。

市域全体の土地利用現況面積と割合(面積(km²)、割合(%))



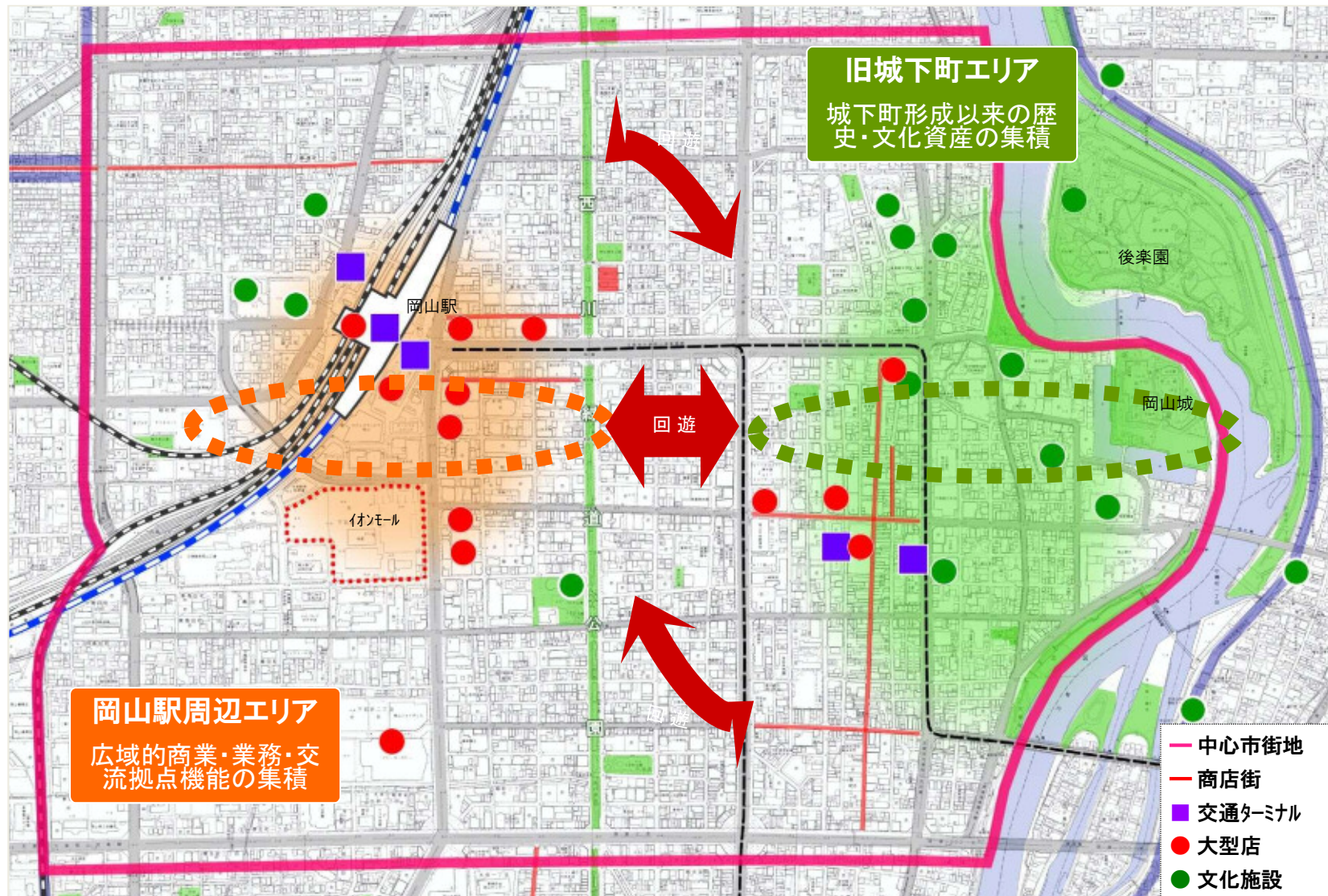
都市計画区域等の面積

	面積(km ²)	割合(%)	
都市計画区域	585.97	74.2	
都市計画区域内	市街化区域	103.88	13.2
	市街化調整区域	482.09	61
都市計画区域外	203.95	25.8	
市域全体	789.92	100.0	

資料: 都市計画おかやま資料集2010
 国土地理院HP 平成23年 全国都道府県市区町村別面積調

中心市街地のゾーンニング

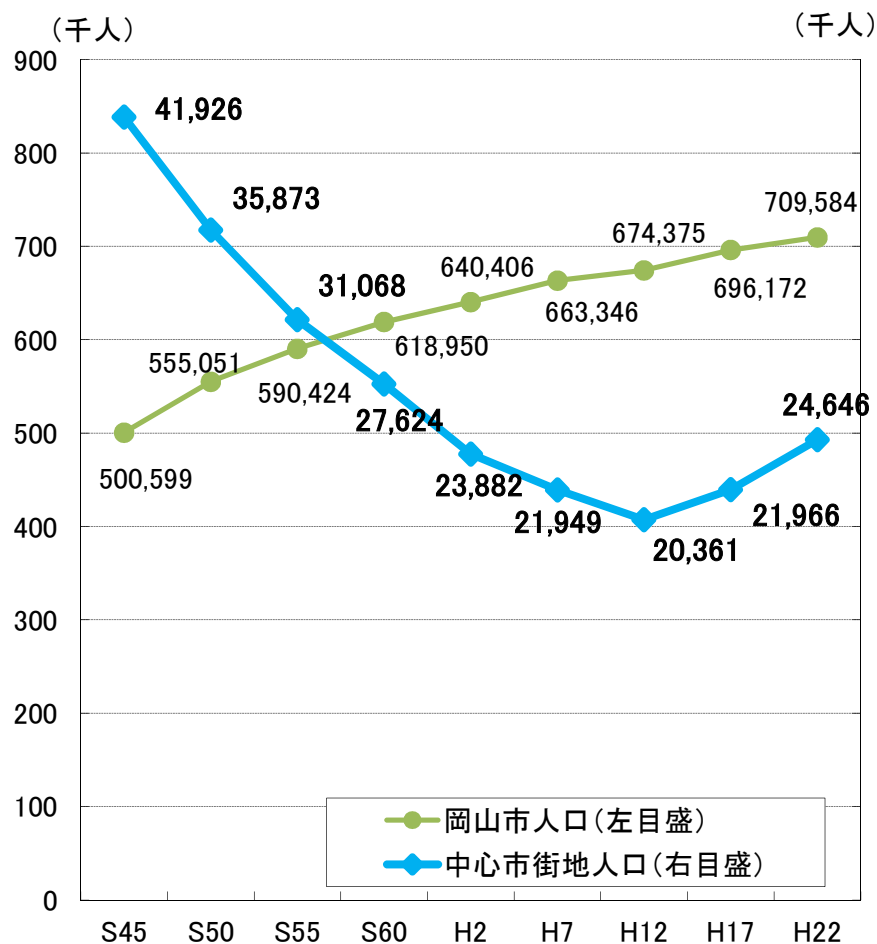
○岡山市の中心市街地には、広域的な商業、業務、交流拠点機能が集積する「岡山駅周辺エリア」と城下町形成以来の歴史・文化資産が集積する「旧城下町エリア」の2つのにぎわいの拠点がある。



中心市街地の人口推移

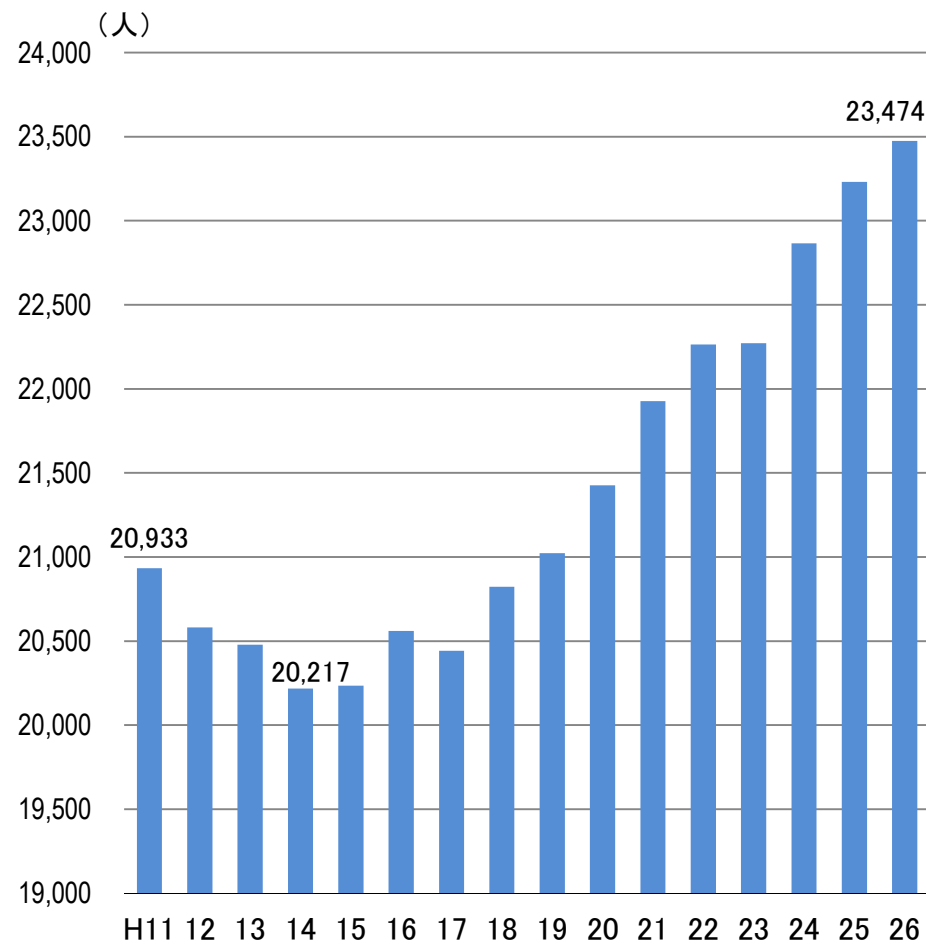
○岡山市全体の人口が一貫して増加しているのに対し、中心市街地の人口は長期的に減少してきたが、平成14年を底に増加に転じた。

中心市街地の長期的な人口推移(昭和45～平成22)



資料:国勢調査

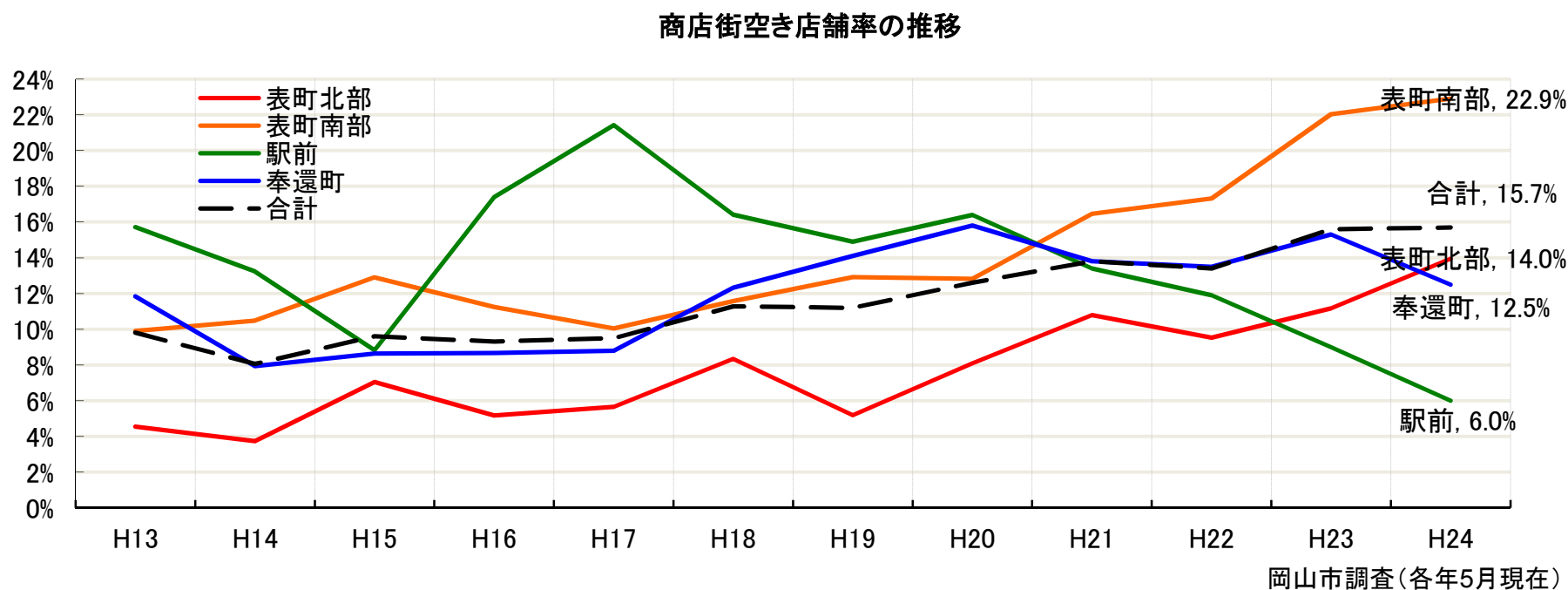
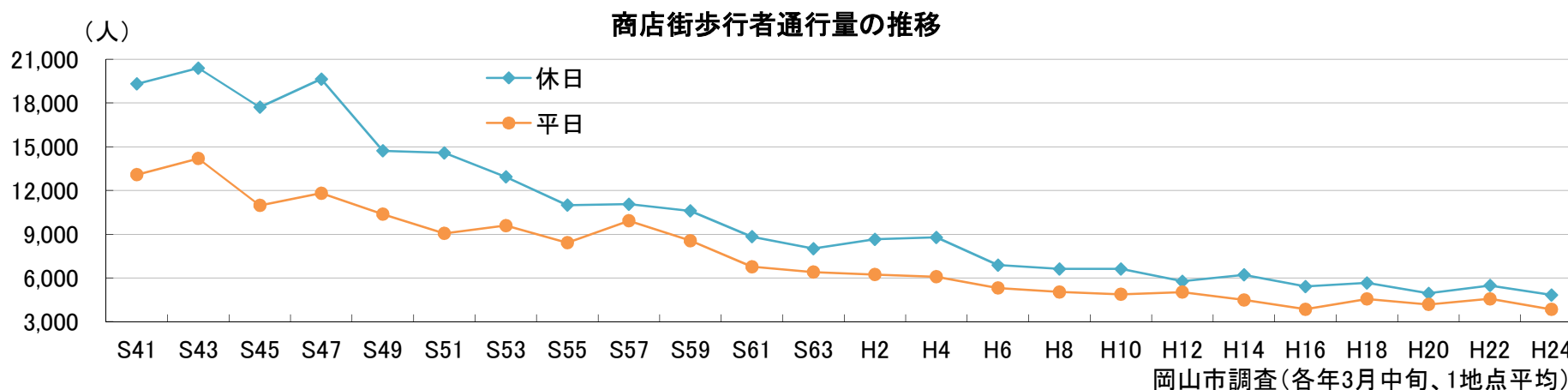
中心市街地の人口推移(平成11～26)



資料:住民基本台帳人口(各年6月末日)

中心市街地の商店街

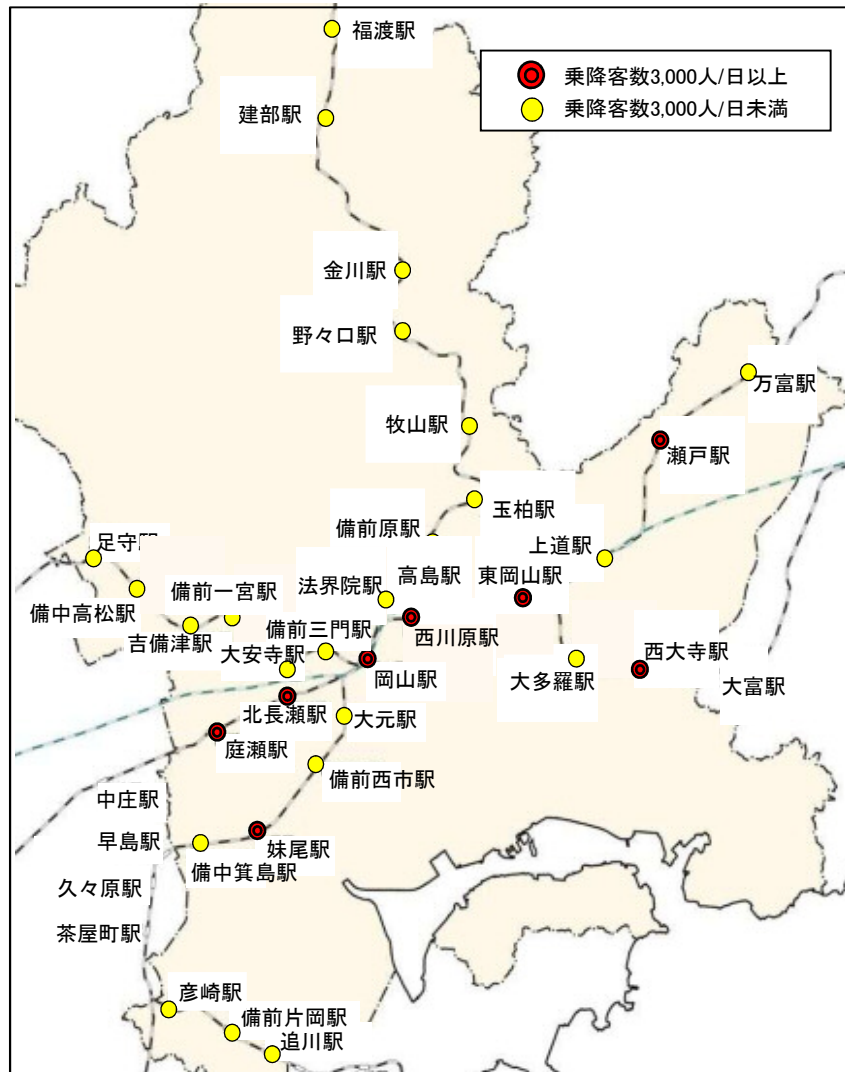
- 商店街での歩行者通行量は減少傾向。
- 商店街の空き店舗率は、駅前商店街は平成17年以降は減少傾向。表町は南部、北部とも増加傾向。



岡山市のJR駅別利用者数

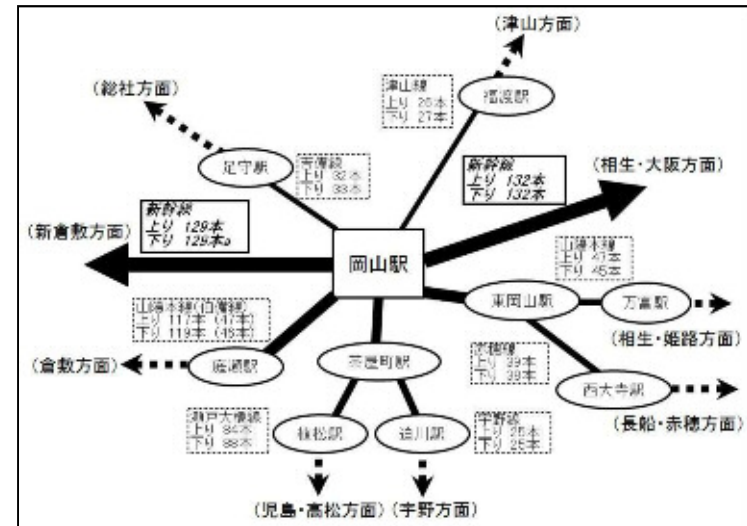
○岡山駅を中心に山陽新幹線をはじめ在来線7線が運行しており、乗降客数は岡山駅が12.5万人/日で突出している。
○岡山市内の乗降客数3,000人/日以上は、9駅である。

JR駅位置図



資料: JR提供

鉄道網と各路線の運航頻度(平成26年3月時点)

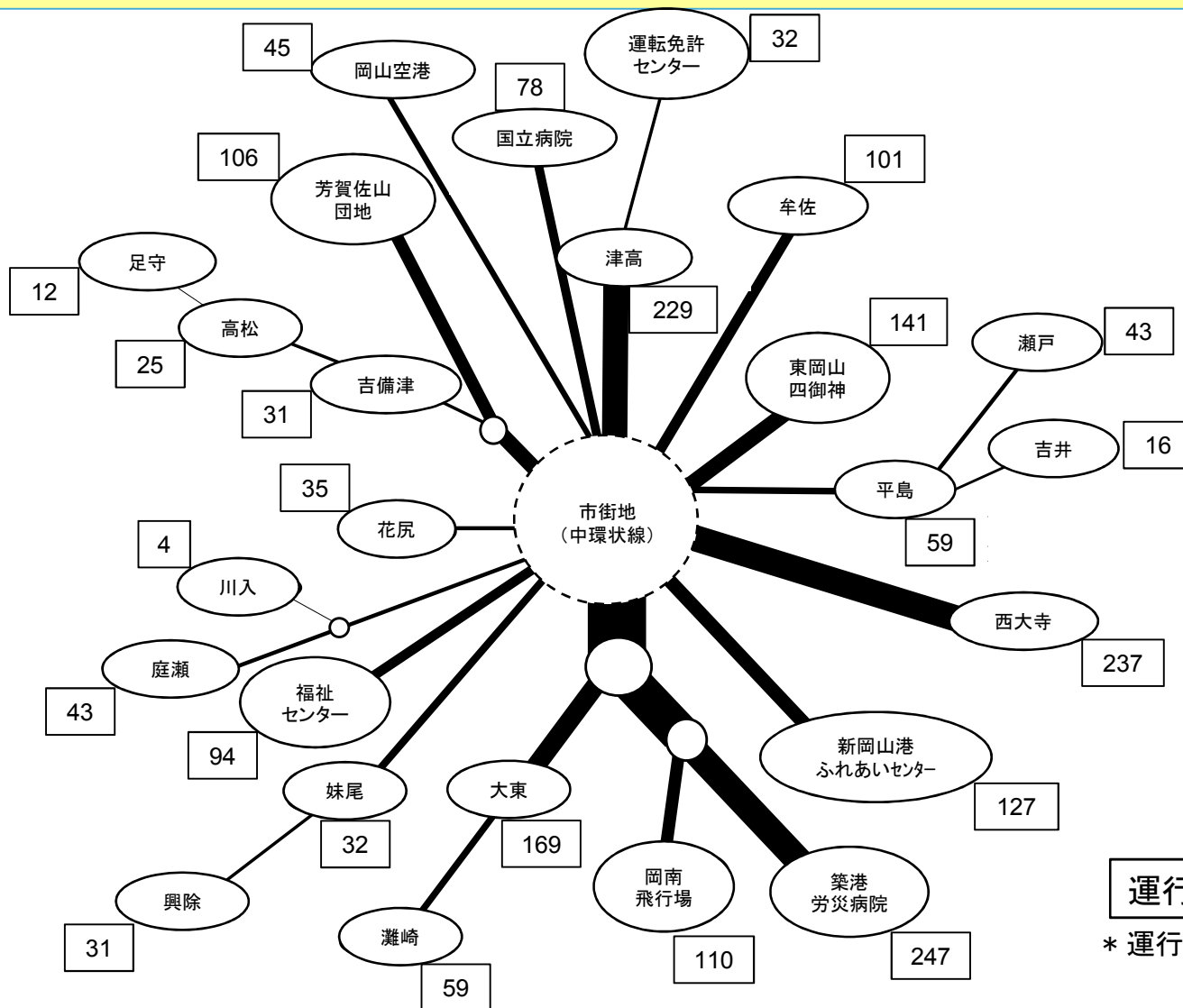


各駅平均乗降客数(人/日) (平成25年度)

順位	駅名	計	順位	駅名	計
1	岡山	124,555	17	金川	1,734
2	庭瀨	7,766	18	備前一宮	1,683
3	北長瀨	6,822	19	万富	1,344
4	東岡山	6,752	20	足守	1,153
5	西大寺	6,736	21	吉備津	1,120
6	妹尾	6,018	22	彦崎	589
7	西川原	5,939	23	大安寺	573
8	高島	5,880	24	迫川	508
9	瀬戸	5,143	25	備前片岡	493
10	大元	2,850	26	福渡	479
11	上道	2,823	27	建部	420
12	大多羅	2,816	28	植松	290
13	備中高松	2,654	29	備中箕島	273
14	備前西市	2,534	30	野々口	223
15	法界院	2,178	31	玉柏	179
16	備前三門	1,928	32	備前原	172
			33	牧山	84

岡山市内の主な路線バスの方面別運行本数

○岡山市内の主な路線バスの方面別運行本数をみると、「西大寺」、「築港、労災病院」、「津高」方面が特に多く、いずれも200本以上である。



運行本数 (H26)

* 運行本数は、往路・復路合計

岡山市内の主な路線バスの方面別運行本数(平日)

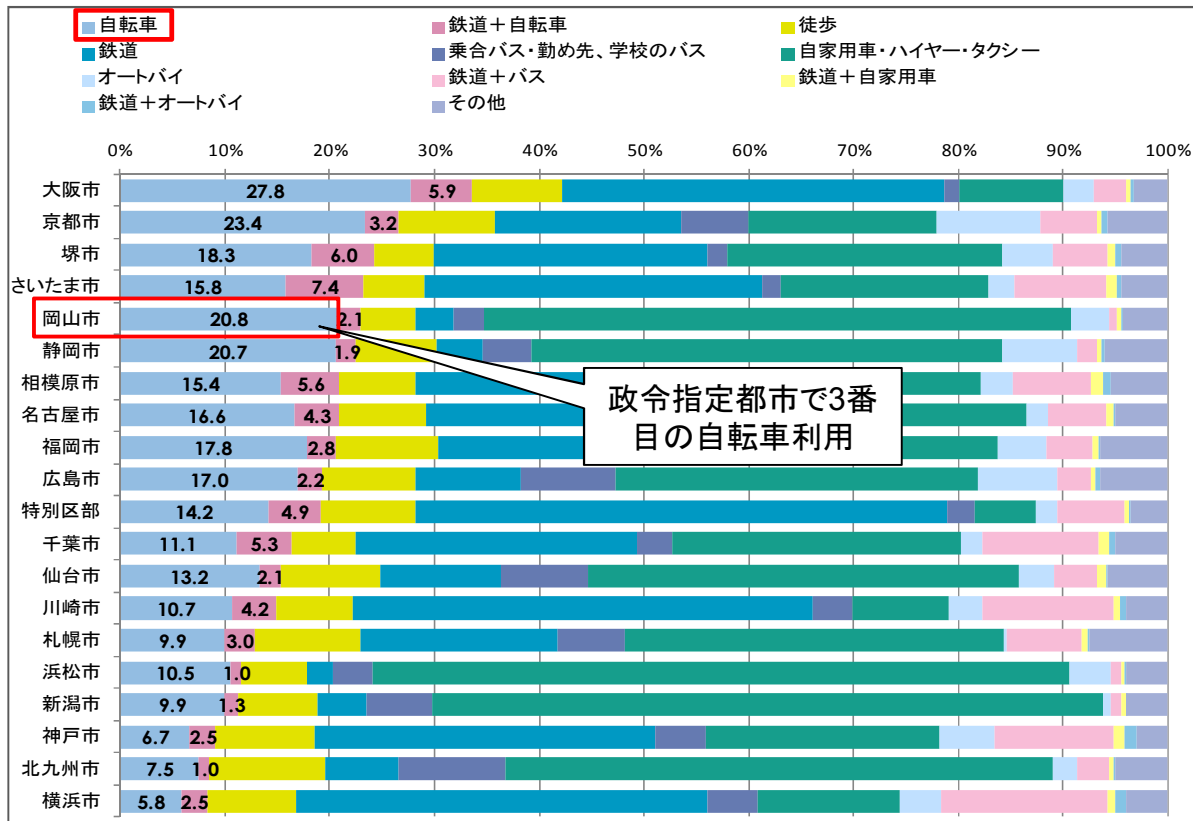
資料:各バス会社時刻表

岡山市の自転車利用環境等に関する満足度

- 岡山市の通勤通学時の交通手段で、自転車の分担率は20.8%で、政令指定都市で3番目。
- 高い自転車利用の一方で、自転車利用環境等に対する満足度は低い。

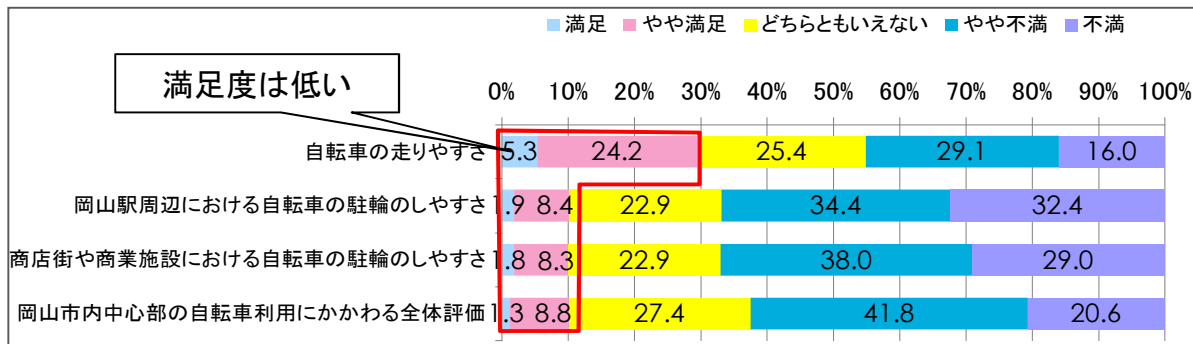
通勤通学時の交通手段 (政令指定都市集計)

資料:平成22年国勢調査



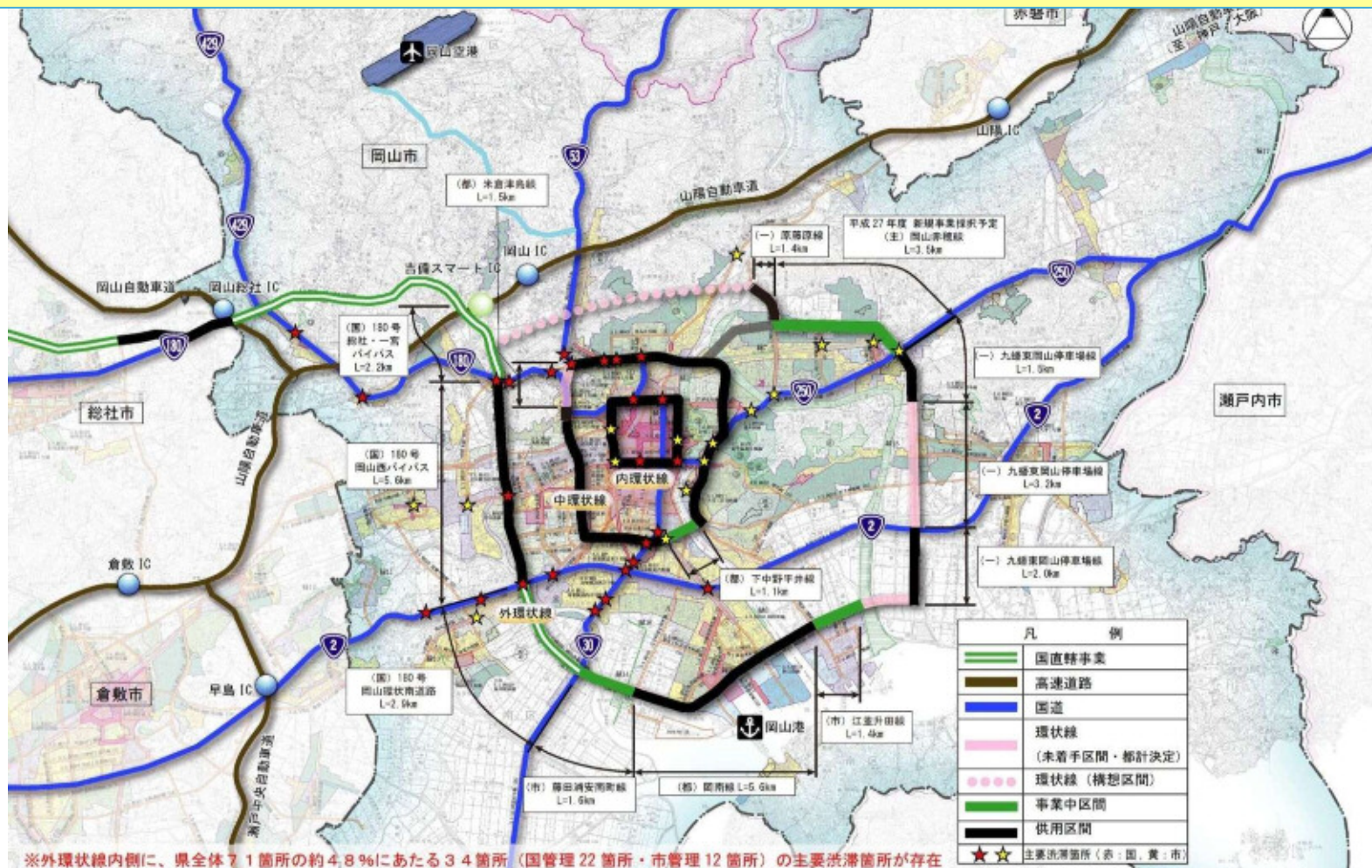
市内の自転車利用環境等 に対する満足度

資料:岡山市民アンケート調査
(H23.11月~H24.1月交通政策課実施)



岡山環状道路の整備状況

- 内環状線:延長 6.7km 整備率100%
 - 中環状線:延長16.6km 整備率 90%(暫定供用含む)
 - ・事業中区間:(市施行)下中野平井線 約1.0km ・事業着手準備区間:米倉津島線 約0.6km
 - 外環状線:延長38.4km 整備率 42%(暫定供用含む)
 - ・事業中区間:(国直轄)国道180号総社一宮バイパス 約1.2km、岡山環状南道路 約2.9km
(市施行)市道藤田浦安南町線 約1.6km、市道江並升田線 約1.4km、主要地方道岡山赤穂線 約3.5km
- * 外環状線は地域高規格道路に指定

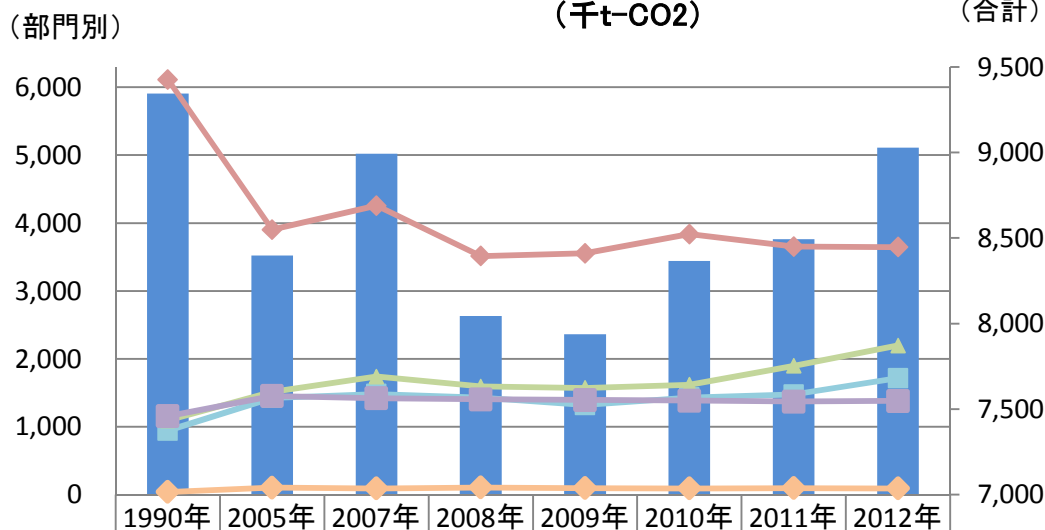


※外環状線内側に、県全体71箇所の約4.8%にあたる34箇所(国管理22箇所・市管理12箇所)の主要洪水箇所が存在

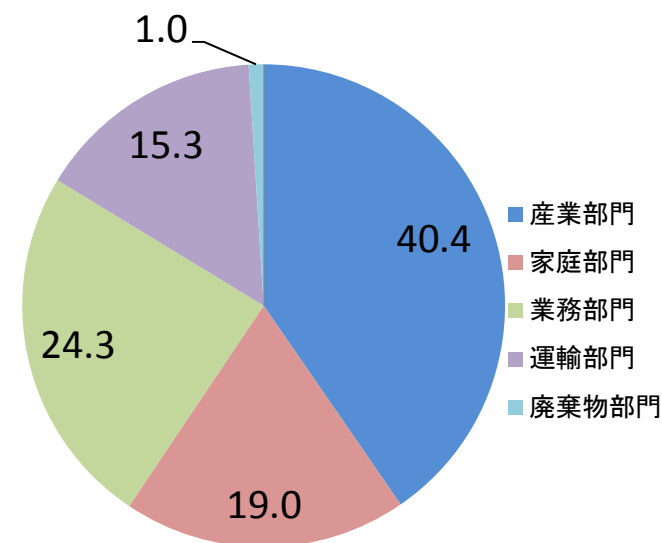
岡山市の二酸化炭素排出量

○岡山市の二酸化炭素排出量は1990年に比べ減少しているが、2009年以降、増加している。
○家庭部門及び業務部門は、2009年以降、他部門に比べ増加傾向にある。

岡山市域全域の二酸化炭素排出量の推移
(千t-CO2)



2012年の構成割合(%)



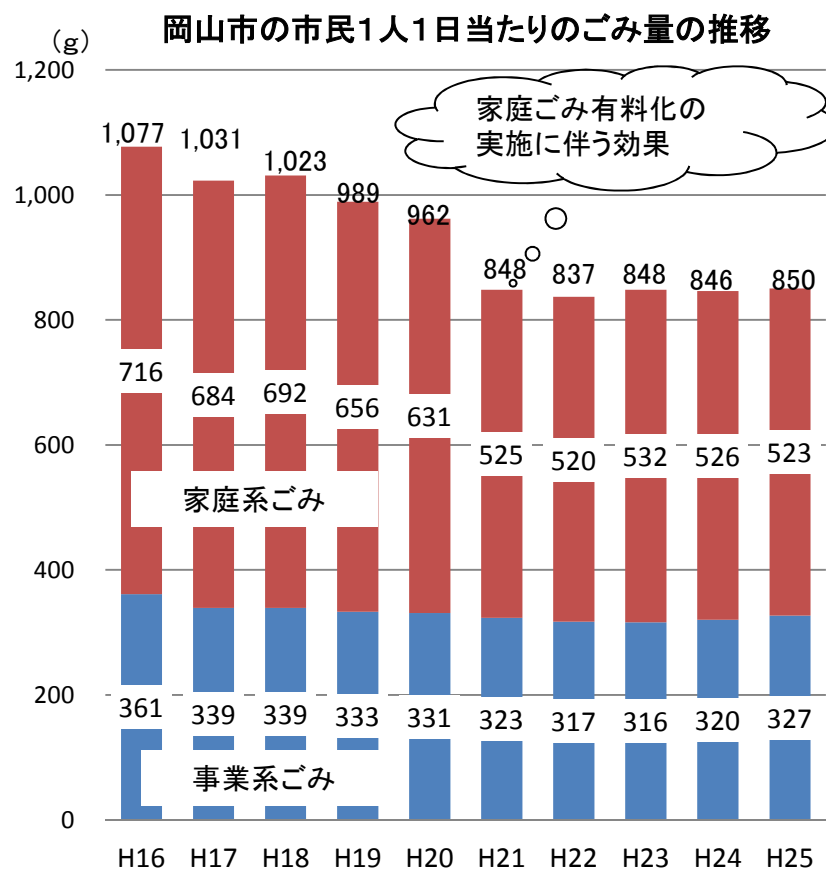
産業部門・・・ 製造業, 建設業, 鉱業, 農林水産業
 家庭部門・・・ 一般家庭
 業務部門・・・ 商業・サービス施設, 事業所等
 運輸部門・・・ 自動車, 鉄道, 船舶 等
 廃棄物部門・・・ 廃棄物焼却

資料: 環境省「全市区町村の部門別CO2排出量の現況推計値」より抜粋

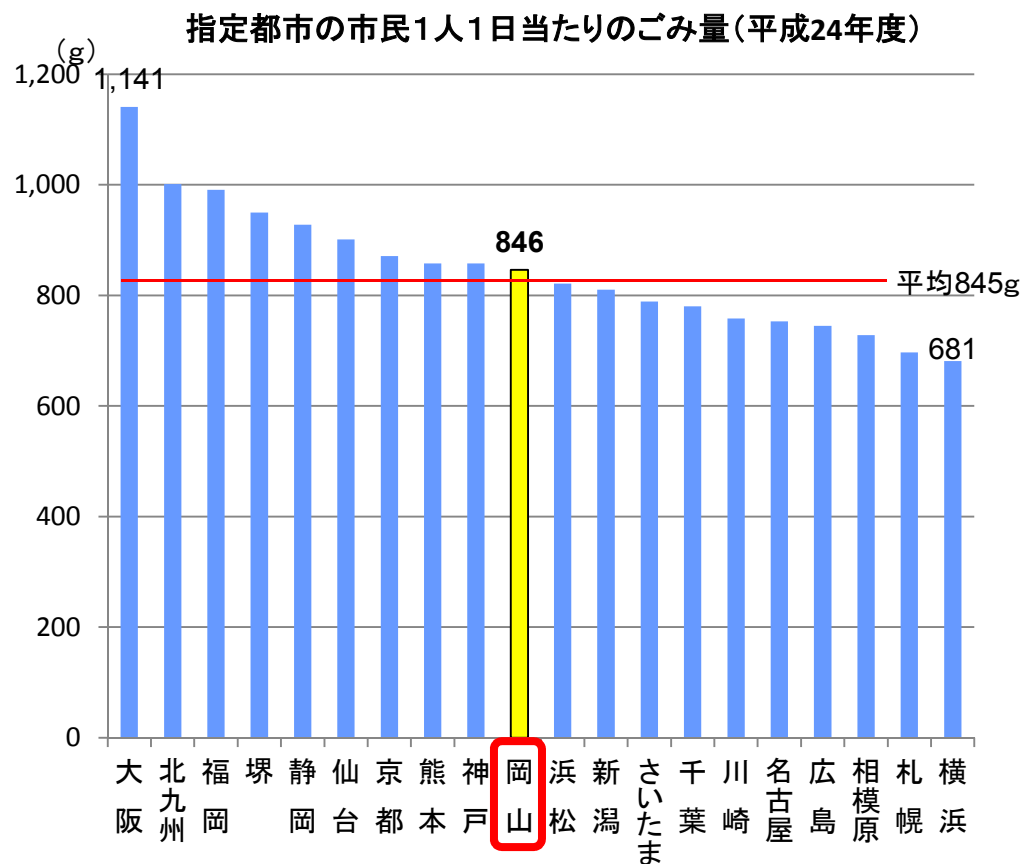
岡山市の市民1人1日当たりのごみ量

○岡山市における市民1人1日当たりのごみ量は、家庭系ごみは平成20年度まで減少傾向だったが、平成21年2月からの家庭ごみ有料化の実施に伴い、平成21年度に大幅に減少した。事業系ごみは横ばい傾向が続いている。

○指定都市の中では少ない方から11番目であり、指定都市の平均の845g(平成24年度)を若干上回っている。



資料: 岡山市

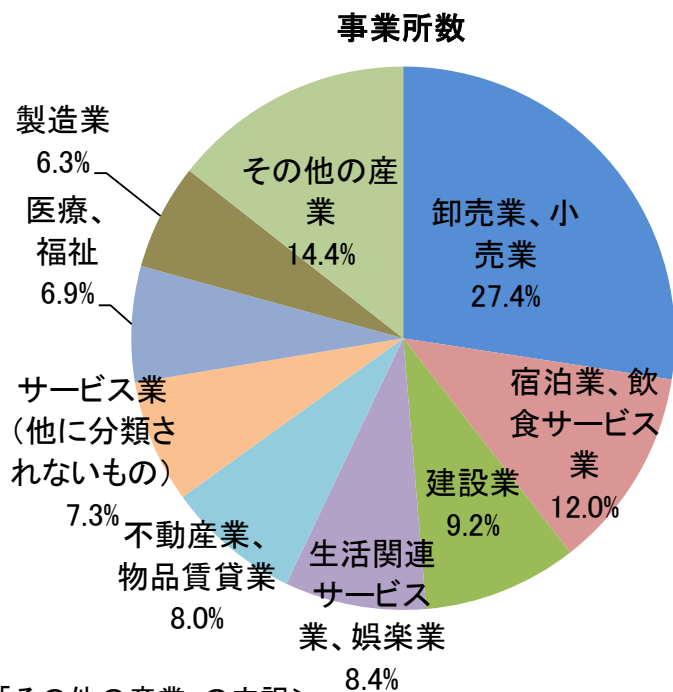


名古屋市調べ

岡山市の産業分類別の事業所数、従業者数

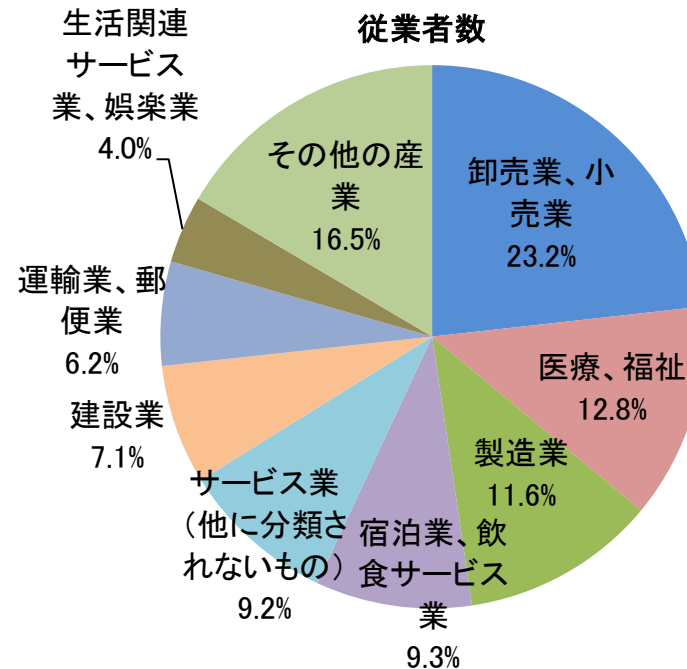
○岡山市における事業所数(民間)の構成比を産業分類別にみると、最多は卸売業、小売業(27.4%)であり、次いで宿泊業、飲食サービス業(12.0%)、建設業(9.2%)となっている。

○岡山市における従業者数(民間)の構成比を産業分類別にみると、最多は卸売業、小売業(23.2%)であり、次いで医療、福祉(12.8%)、製造業(11.6%)となっている。



<「その他の産業」の内訳>

学術研究、専門・技術サービス業	4.8%
教育、学習支援業	2.7%
運輸業、郵便業	2.4%
金融業、保険業	2.3%
情報通信業	1.4%
農林漁業	0.3%
複合サービス業	0.5%
鉱業、採石業、砂利採取業	0.04%
電気・ガス・熱供給・水道業	0.05%



<「その他の産業」の内訳>

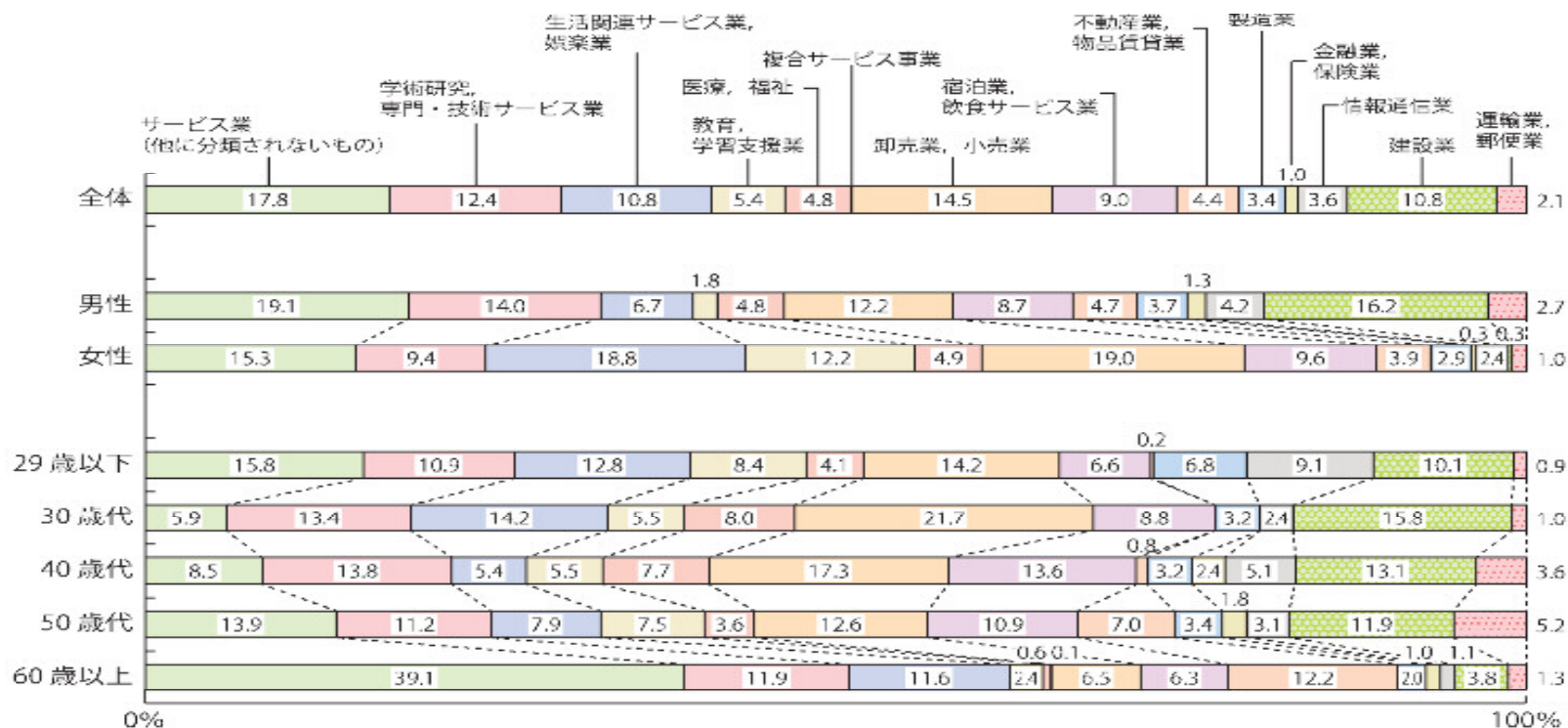
金融業、保険業	3.5%
教育、学習支援業	3.5%
情報通信業	2.8%
不動産業、物品賃貸業	2.8%
学術研究、専門・技術サービス業	2.8%
複合サービス業	0.6%
電気・ガス・熱供給・水道業	0.3%
農林漁業	0.2%
鉱業、採石業、砂利採取業	0.02%

資料：総務省「経済センサス(H24)」

性別及び年齢別の起業分野(全国)

- 性別についてみると、女性は、男性と比べて「生活関連サービス業、娯楽業」、「教育、学習支援業」等の分野での起業が多い。
- 年齢別にみると、60歳以上の起業は、「サービス業」の割合が高くなっている。一方で、若者(29歳以下)は「生活関連サービス業、娯楽業」や「情報通信業」の割合が高い。

性別及び年齢別の起業分野



資料：総務省「平成24年就業構造基本調査」再編加工

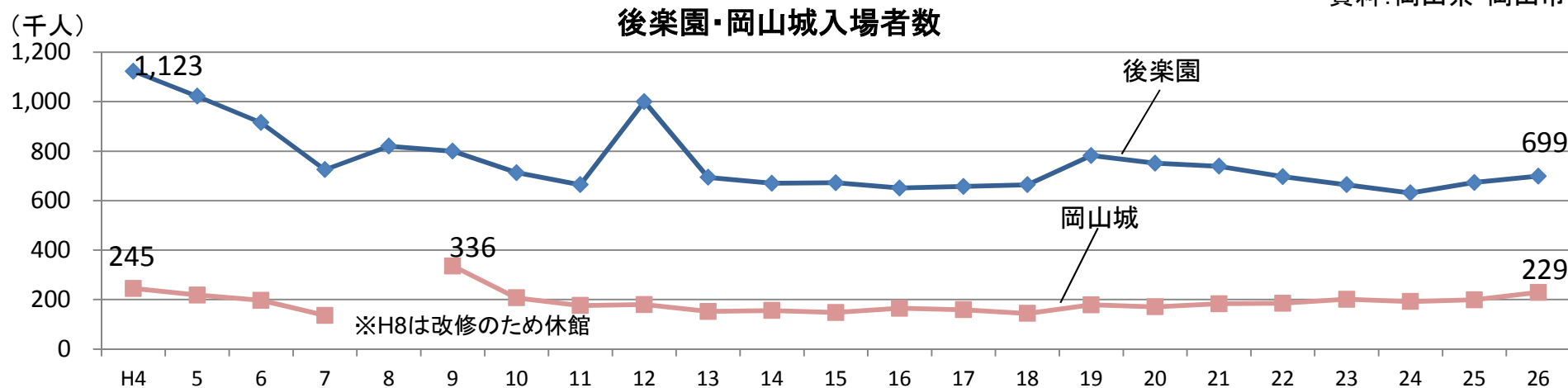
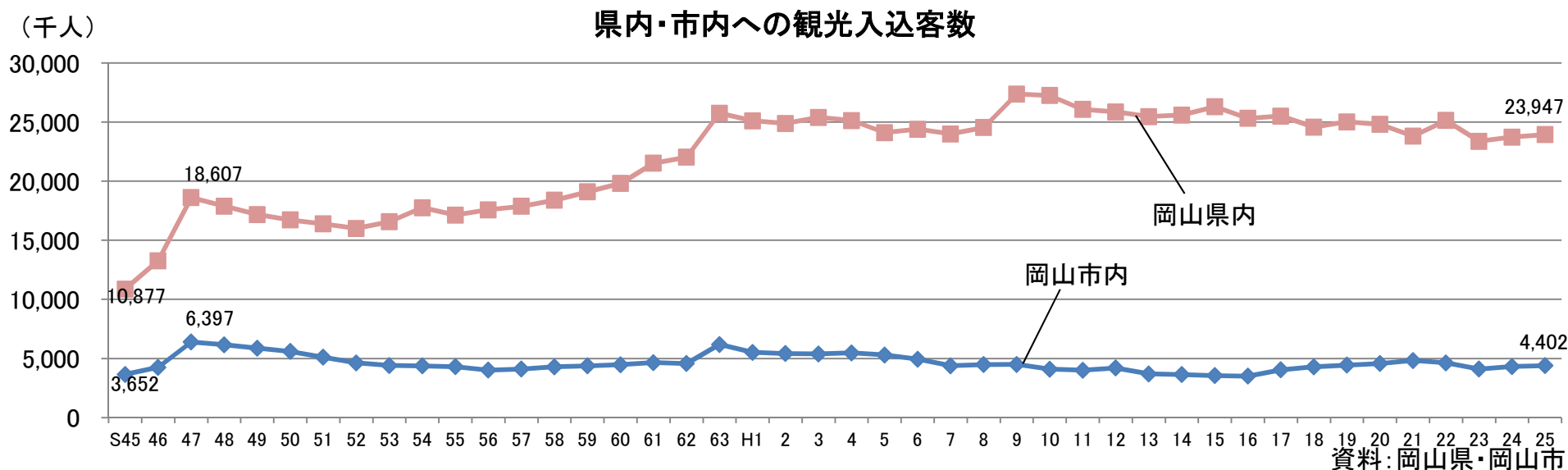
(注) ここでいう「起業分野」とは、過去1年間に職を変えた又は新たに職についた者のうち、現在は自営業主(内職者を除く)となっている者が就業している産業分野をいう。

県内・市内への観光入込客数及び後樂園・岡山城入場者数



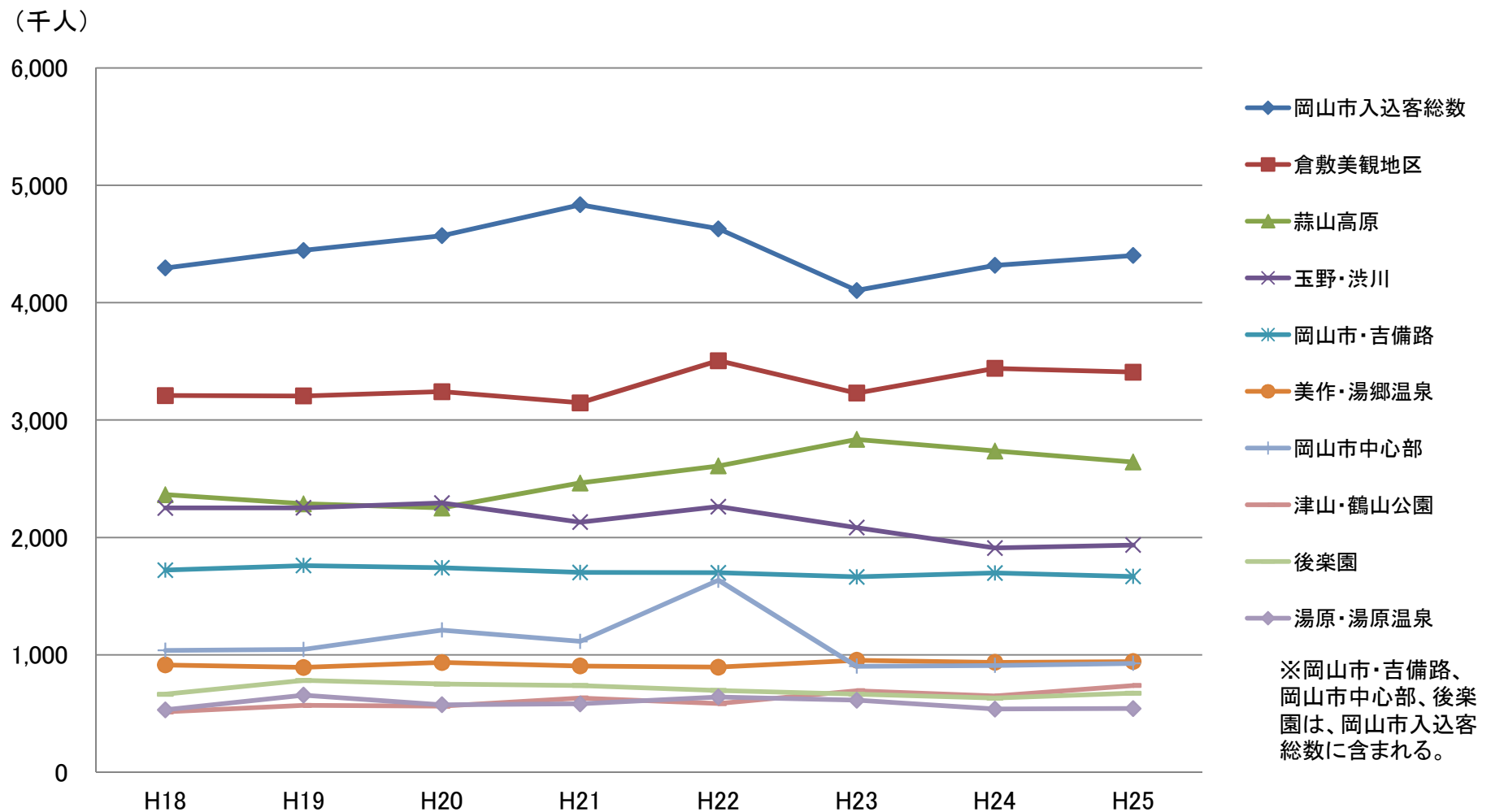
○直近の岡山市への観光入込客総数は、ピーク時(昭和47年:山陽新幹線岡山まで開通)の69%に減少している。

○岡山城への入場者数は、平成9年の築城400年を除き、ほぼ横ばいで推移している。



岡山県内の地域別観光地入込客数

○倉敷美観地区と後樂園・岡山市中心部の入込客数には大きな差があり、倉敷美観地区への入込客が後樂園・岡山市中心部には、あまり立ち寄っていない状況が見受けられる。



資料: 岡山市「岡山市観光統計」
岡山県「岡山県観光客動態調査」

岡山市の農業の特徴(全国有数の農業都市)



- 岡山市の総農家戸数は12,691戸で、全国の市町村の中で3位(平成22年)である。
- 岡山市の販売農家の経営耕地面積(田のみ)は9,317haで、全国の市町村の中で14位(平成22年)である。
- 岡山市の作付面積は水稲が中心で、麦類、果樹、野菜がこれに続く。

農家戸数(総農家)の市町村別順位(単位:戸)

順位	市町村名	戸数
1	静岡県浜松市	13,855
2	長野県長野市	13,496
3	岡山県岡山市	12,691
4	新潟県新潟市	12,690
5	岩手県奥州市	11,582
6	岩手県一関市	11,305
7	香川県高松市	9,941
8	宮城県登米市	9,177
9	兵庫県姫路市	9,158
10	秋田県横手市	8,920

経営耕地面積(販売農家・田のみ)の市町村別順位(単位:ha)

順位	市町村名	面積
1	新潟県新潟市	25,374
2	北海道岩見沢市	15,212
3	秋田県大仙市	13,768
4	岩手県奥州市	13,506
5	宮城県栗原市	13,214
6	山形県鶴岡市	12,857
7	宮城県大崎市	12,645
8	宮城県登米市	12,356
9	秋田県横手市	12,110
10	新潟県長岡市	11,784
⋮	⋮	⋮
14	岡山県岡山市	9,317

資料:2010年農林業センサス

岡山市主要農作物の作付面積(単位:ha)

作物名	作付面積	
水稲	8,530	
麦類	1,813	小麦 392
		二条大麦 1,410
		裸麦 11
果樹	446	ぶどう 315
		もも 131
野菜	289	だいこん 14
		にんじん 11
		れんこん 29
		やまのいも 4
		はくさい 15
		キャベツ 33
		ほうれんそう 20
		レタス 35
		ねぎ 51
		たまねぎ 25
		きゅうり 2
かぼちゃ 15		
なす 32		
トマト 1		
メロン 2		
大豆	164	

資料:岡山農林水産統計年報(野菜・果樹はJA岡山、JA岡山東調べ)

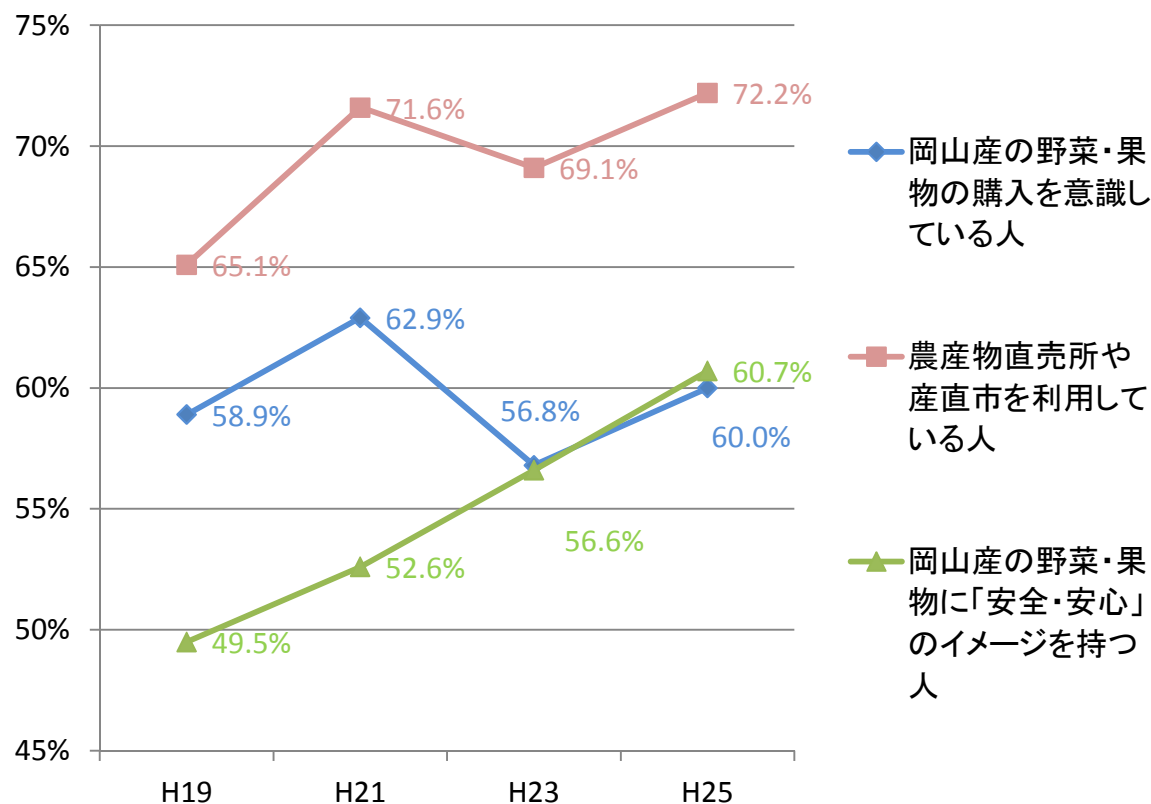
※水稲はH25、他はH24の値

- ※「農家」とは、経営耕地面積が10アール以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が15万円以上の世帯をいう。
- ※「販売農家」とは、経営耕地面積が30アール以上又はは調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。
- ※「経営耕地」とは、調査期日現在で農林業経営体が経営している耕地をいい、自作地と借入耕地の合計をいう。

地産地消に対する岡山市民の意識等

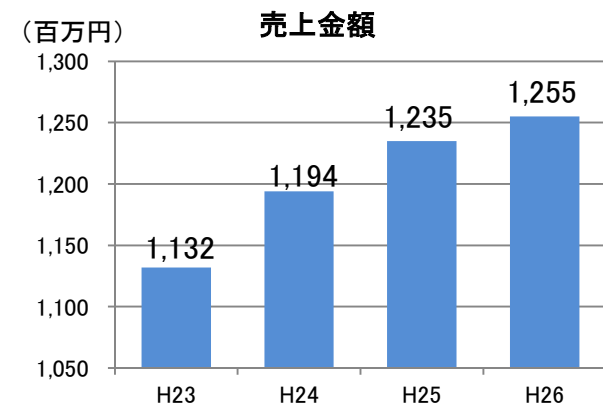
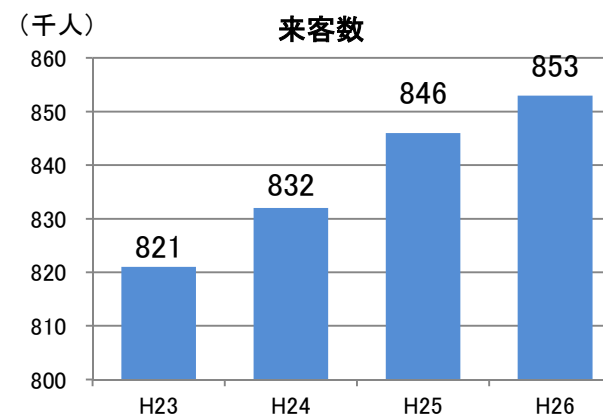
- 「野菜・果物の購入時に岡山産を意識している市民」、および、「農産物直売所や産直市を利用している市民」の割合は、どちらも年々高まる傾向にあり、平成25年度はそれぞれ60.0%、72.2%である。
- 「岡山産の野菜・果物に対して、安全・安心のイメージを持っている市民」の割合は、年々高まっており、平成25年度は60.7%である。
- 岡山市内のJA岡山直売所では、来客数・売上金額ともに右肩上がりで推移している。

地産地消に対する岡山市民の意識



資料：岡山市市民意識調査

岡山市内のJA岡山直売所(7店舗)来客数と売上金額の推移



資料：JA岡山

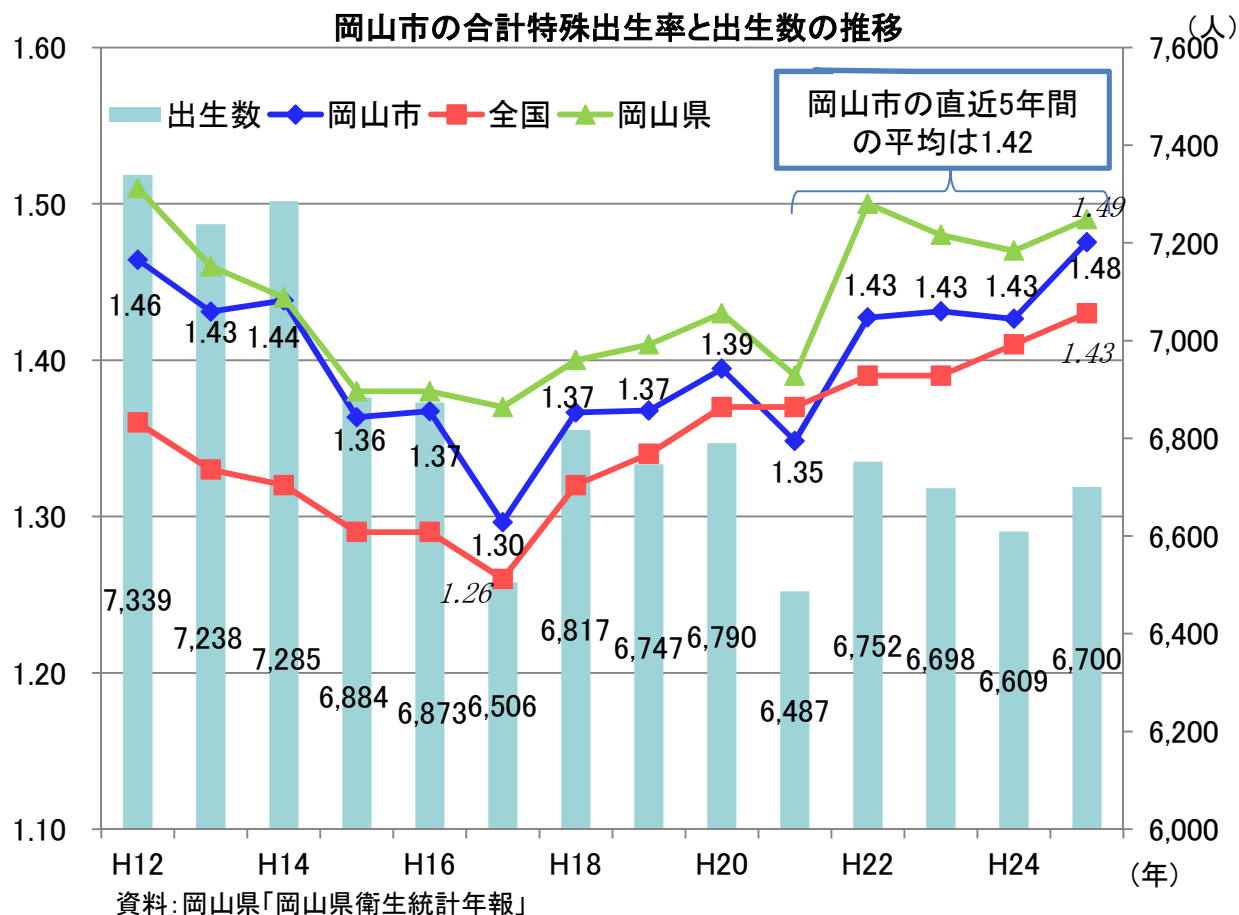
合計特殊出生率及び出生数の状況(国、県、市)



○合計特殊出生率は、岡山県を若干下回るものの、全国より概ね高い水準で推移している。平成15～21年の間は1.3台で低迷していたが、平成22年以降は1.4台に上昇し、最近5年間の平均値は1.42である。

○出生数は、平成12年～17年にかけて減少した後、平成21年を除けば概ね6,600～6,800人前後で推移している。

○合計特殊出生率と出生数で異なった動きがみられるのは、15～49歳の女性の人口が緩やかに減少しているためと推測される。



指定都市の合計特殊出生率 上位5位

順位	指定都市	値
1	浜松市	1.57
2	北九州市	1.50
3	熊本市	1.49
4	広島市	1.46
5	岡山市	1.44
政令市平均		1.33

(参考)都道府県の合計特殊出生率 上位10位

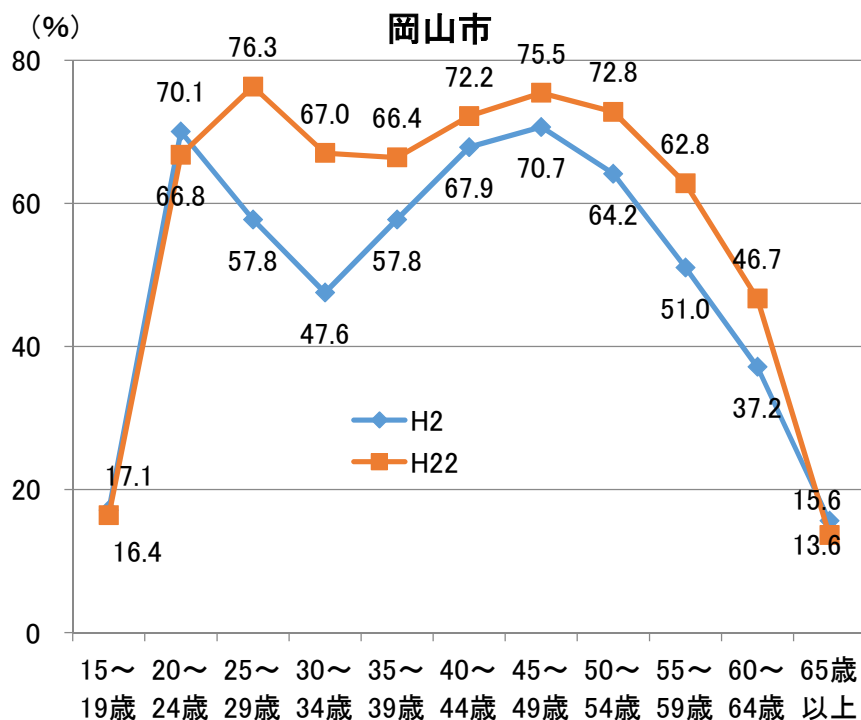
順位	都道府県	値
1	沖縄県	1.94
2	宮崎県	1.72
3	島根県	1.65
3	熊本県	1.65
5	長崎県	1.64
6	鹿児島県	1.63
7	鳥取県	1.62
8	福井県	1.60
9	香川県	1.59
9	佐賀県	1.59
全国平均		1.43

注: 都道府県は平成25年、政令指定都市は平成20～24年の数字

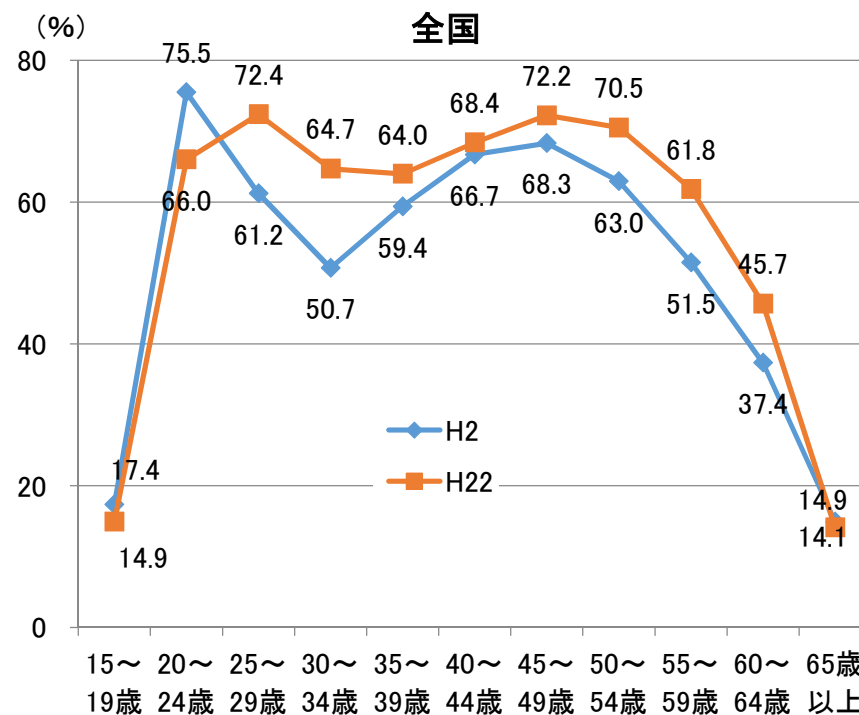
資料: 厚生労働省「平成25年人口動態報告」「人口動態保健所・市区町村別統計」

岡山市の女性労働力率

○岡山市の女性の労働力率は、平成2年から22年の20年間に、25歳～64歳にかけて幅広く上昇している。特に25～29歳では18.5ポイント、30～34歳では19.4ポイントと大幅に上昇している。
○平成2年は25～39歳の労働力率が全国より下回っていたが、平成22年には全国より上回った。



資料：国勢調査



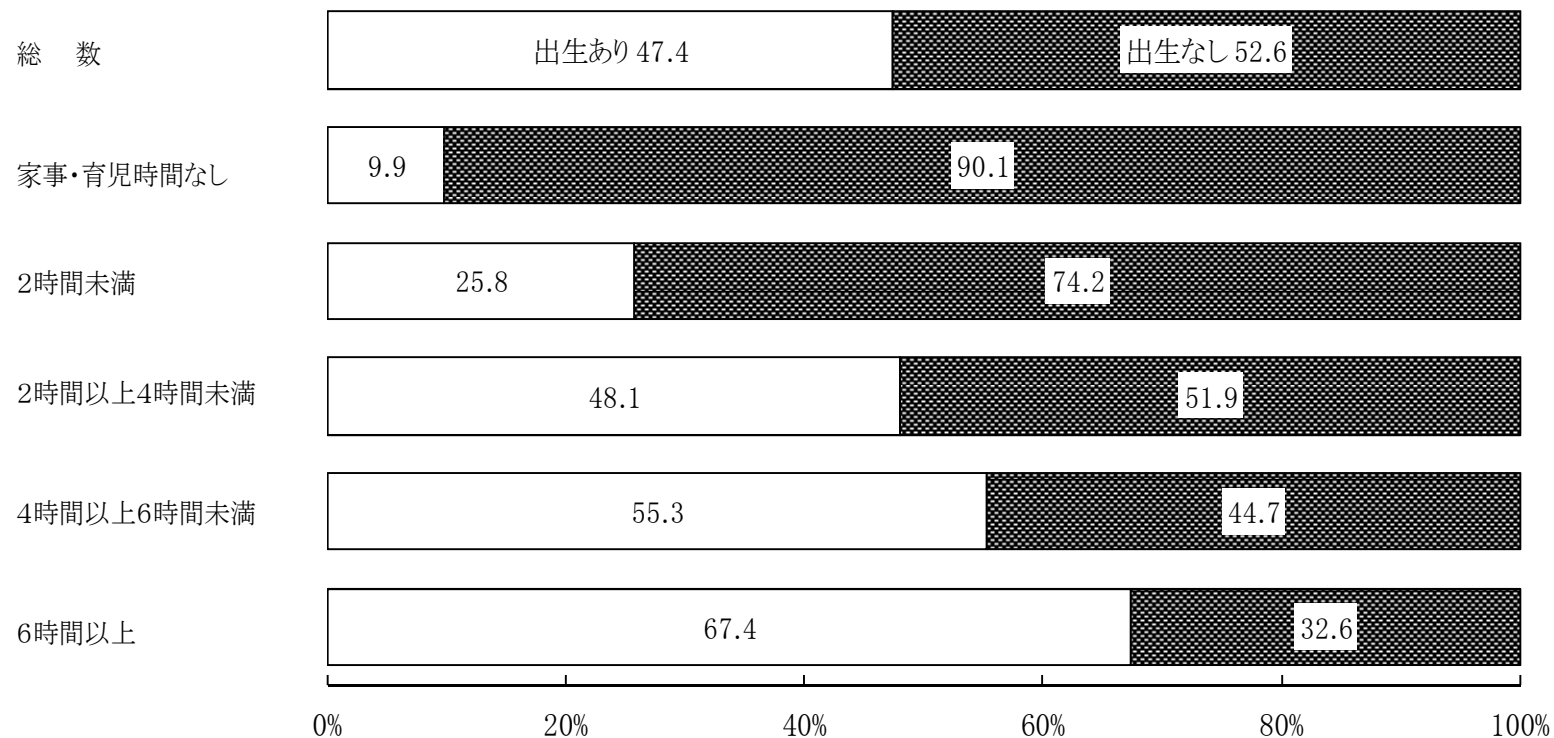
資料：国勢調査

注：労働力率とは、15歳以上人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合。

男性の育児・家事への参加(全国)

○夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高い傾向にある。

子どもがいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別にみた、この8年間の第2子以降の出生の状況



注:1)集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

①第1回調査から第9回調査まで双方が回答した夫婦

②第1回調査時に独身で第8回調査までの間に結婚し、結婚後第9回調査まで双方が回答した夫婦

③出生前調査時に、子ども1人以上ありの夫婦

2)家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第8回調査時の状況である。

3)8年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

4)総数には、家事・育児時間不詳を含む。

資料:厚生労働省「第9回21世紀成年者縦断調査」(2011)

「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部資料」より

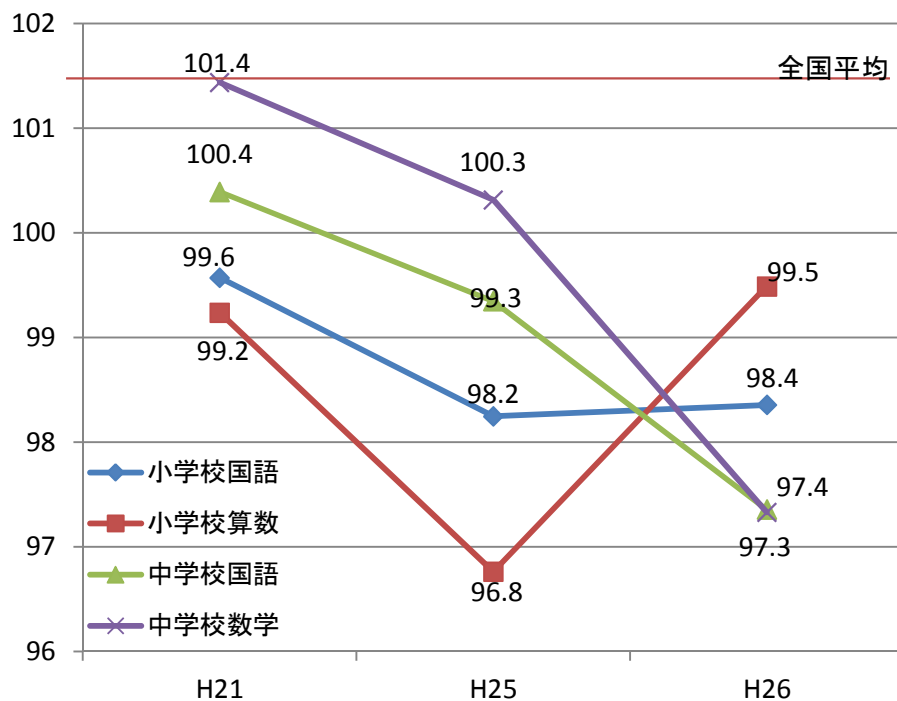
全国学力・学習状況調査における岡山市の傾向

○平成26年度の全国学力・学習状況調査における、主に「知識」に関わる問題の岡山市の正答率は、全て国を下回っている。

○主に「読解力・表現力」に関わる問題の岡山市の正答率は、小学校国語で国とほぼ同じ、その他は国を下回っており、特に中学校数学は国を100とした場合の値が92.2と、全国平均との差が大きい。

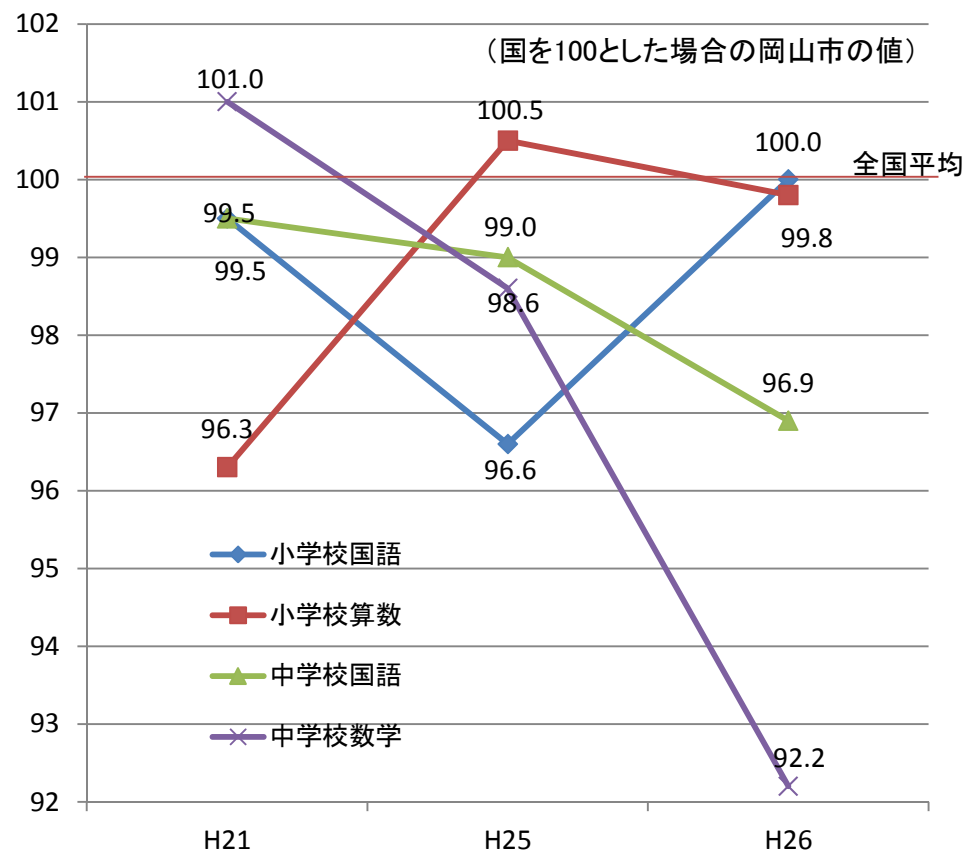
主に「知識」に関わる問題の正答率の対全国比

(国を100とした場合の岡山市の値)



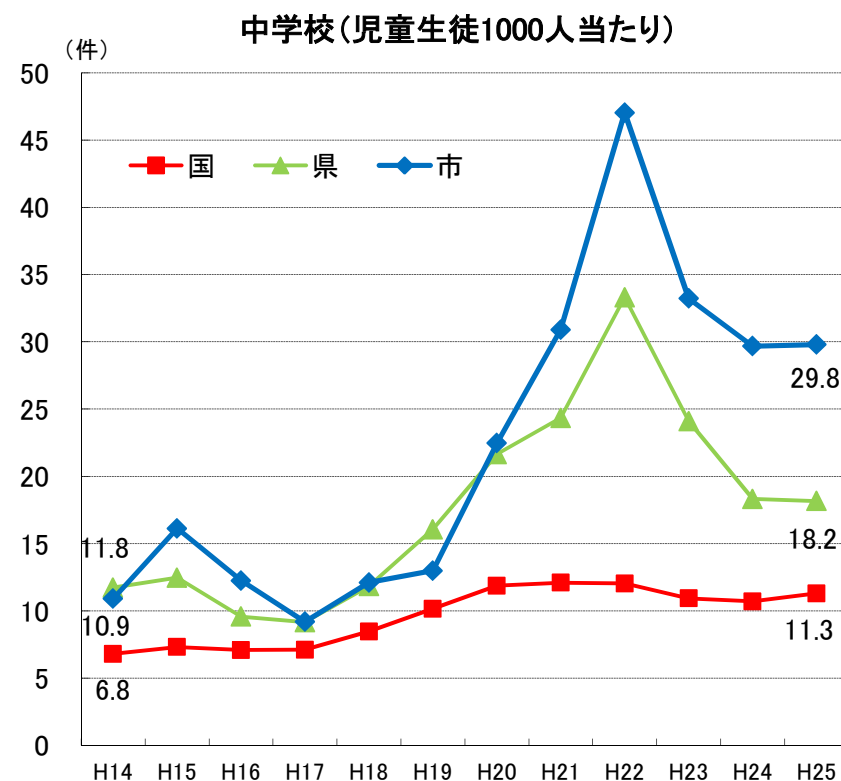
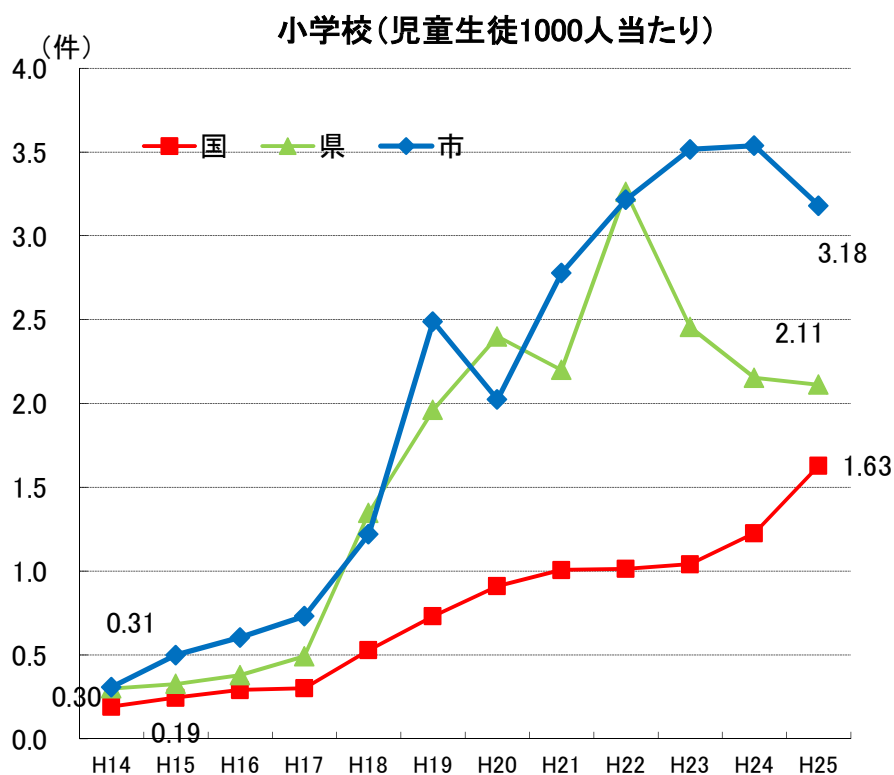
主に「読解力・表現力」に関わる問題の正答率の対全国比

(国を100とした場合の岡山市の値)



暴力行為の発生件数の推移

- 岡山市の児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、小学校、中学校ともに、国や県の発生件数を上回っている状態が続いている。
- 平成25年度の岡山市における暴力行為の発生件数は、小学校で3.18件、中学校で29.8件となっており、中学校での発生件数は、小学校での発生件数の約9.4倍になっている。
- 中学校では、平成22年度をピークに減少傾向にある。



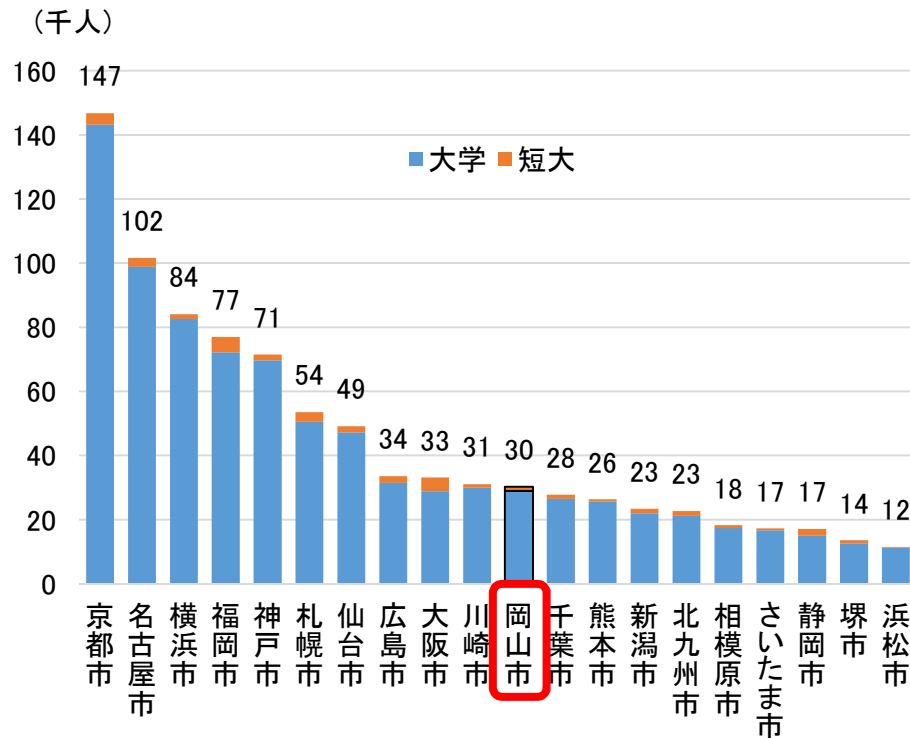
※H18以降の「調査実施上の留意点」に、軽微な行為も計上することが明記された。

資料: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)

指定都市別 大学・短大学生数

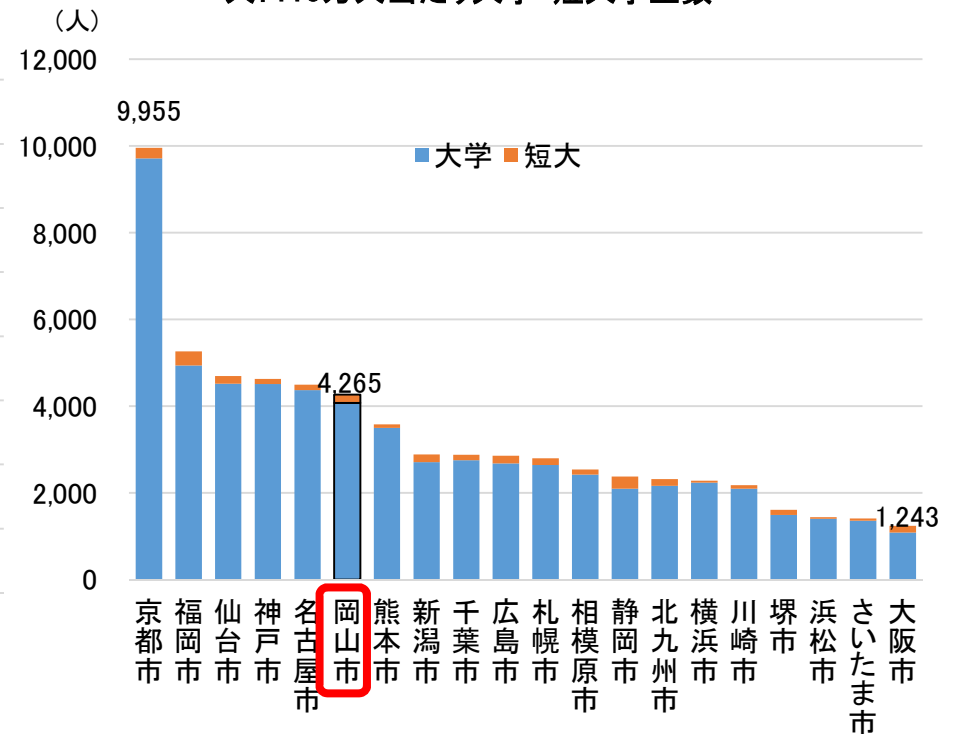
○岡山市の大学・短大の学生数は、約3万人であり、指定都市の中で11位である。
 ○岡山市の人口10万人当たり大学・短大学生数は、4,265人であり、指定都市の中で京都市、福岡市、仙台市、神戸市、名古屋市に次いで6位である。

大学・短大学生数



資料: 文部科学省「学校基本調査(H26)」

人口10万人当たり大学・短大学生数

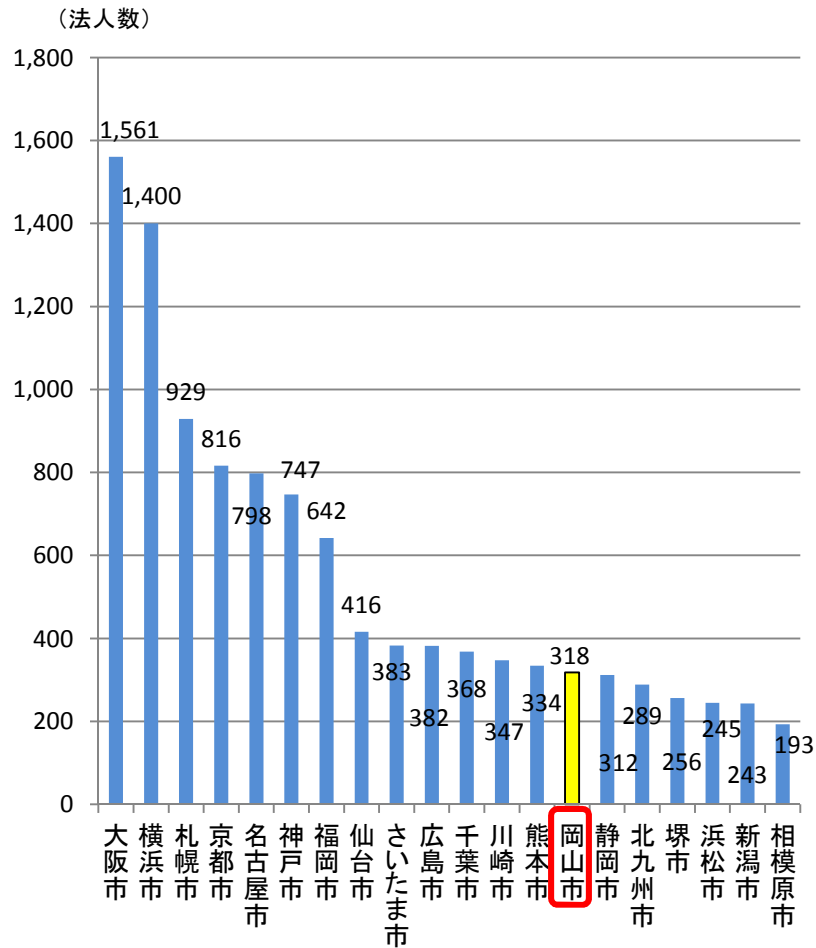


資料: 文部科学省「学校基本調査(H26)」、総務省「国勢調査(H22)」をもとに作成

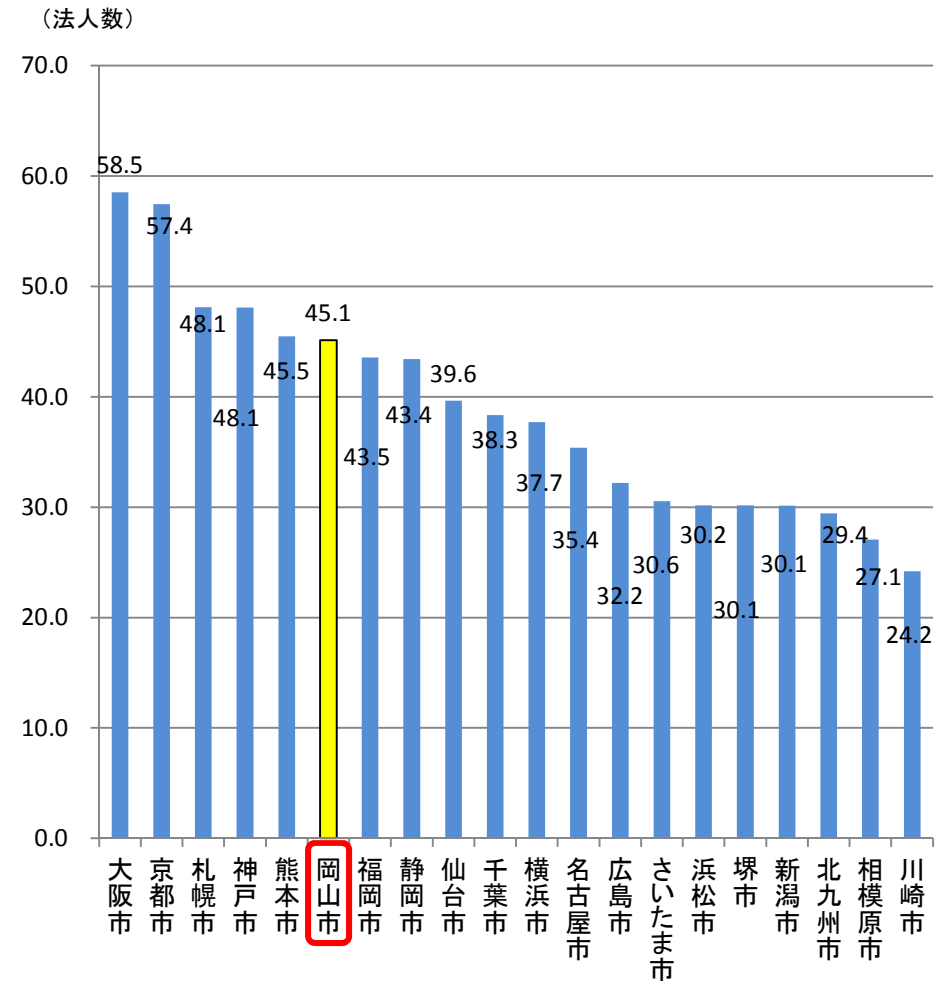
指定都市別 NPO法人数

- 岡山市所轄のNPO法人の数は、指定都市の中で14番目に多い。
- 人口10万人当たりのNPO法人の数は45.1法人であり、指定都市の中で6番目に多い。

NPO法人数比較



人口10万人当たりのNPO法人数比較

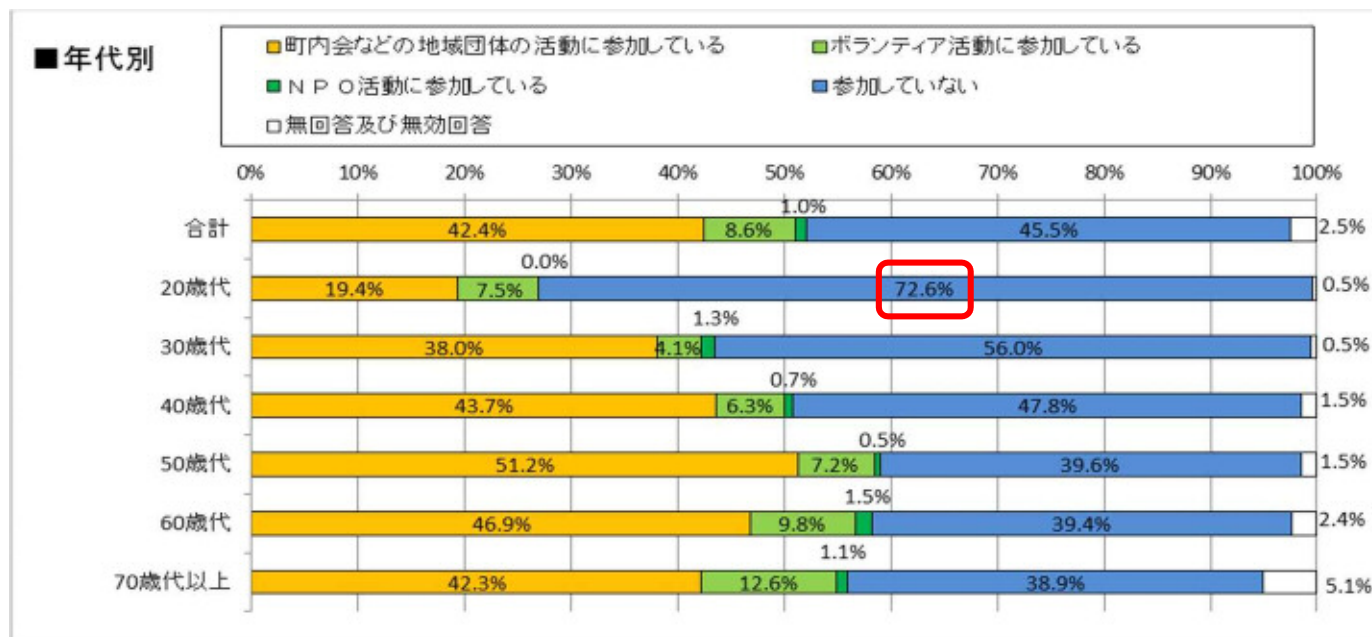
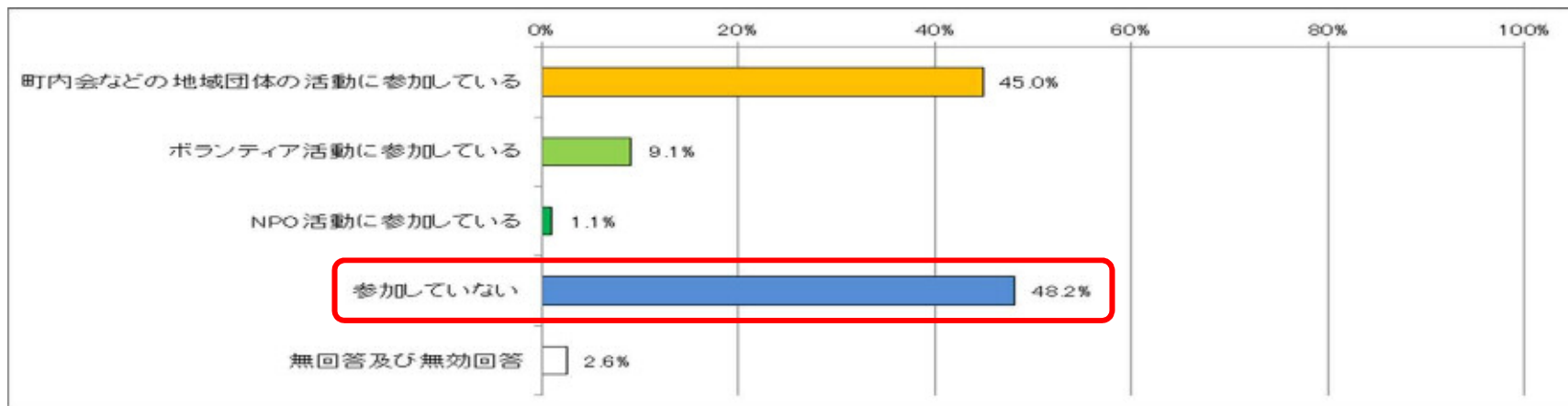


※内閣府提供の平成27年1月末の法人数をもとに岡山市市民協働局で作成。

市民の地域活動への参加状況(市民意識調査)

- 平成25年度岡山市市民意識調査によると、全体の48.2%の人は、地域活動に参加していない。
- 地域活動に参加していない人の割合が最も高いのは20歳代で72.6%にのぼる。

【問】あなたは地域活動に参加していますか。(複数回答)



第15回
平成25年度岡山市市民意識調査
N=2,525

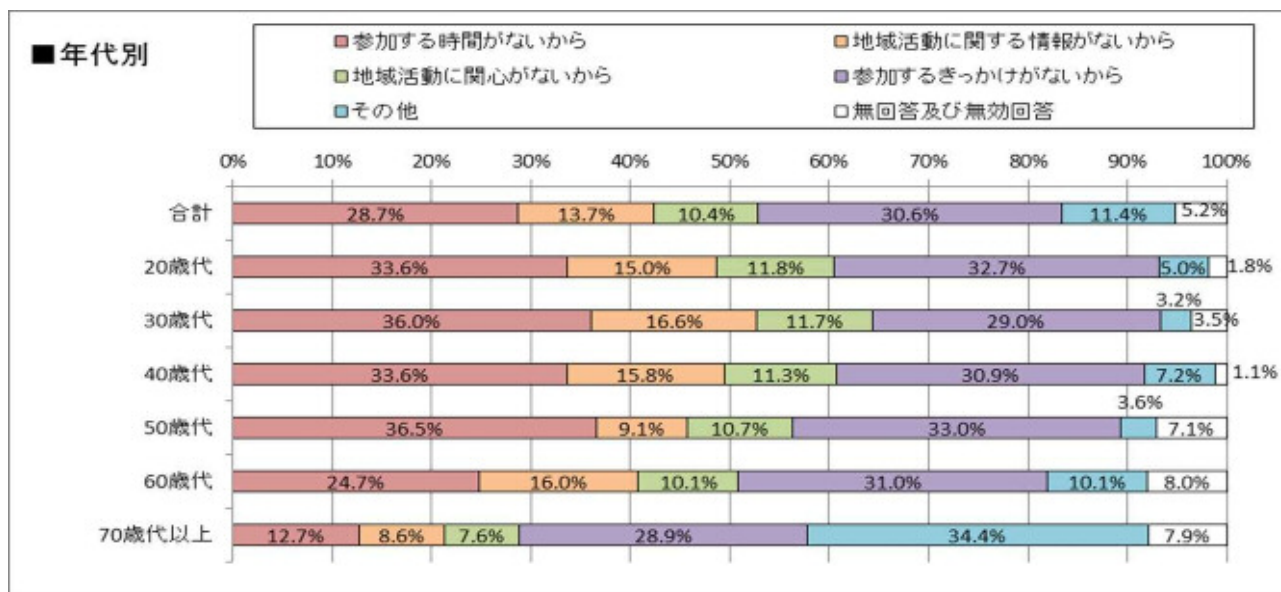
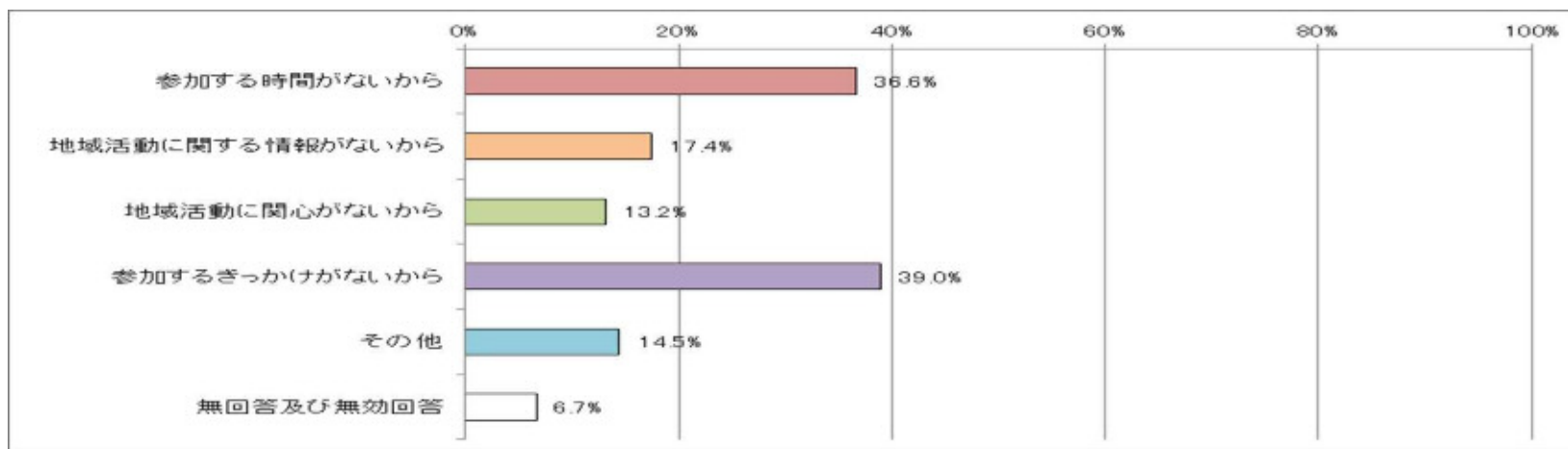
調査日：平成25年8月22日
～9月20日
調査対象：住民台帳から無作為抽出した20歳代以上の5,000人
回収：2,525人(回収率20.5%)

市民が地域活動に参加していない理由（市民意識調査）

○平成25年度岡山市市民意識調査によると、「参加するきっかけがないから」が39.0%と最も多く、「参加する時間がないから」が36.6%と2番目に多い。

○20代から50代までは「参加する時間がないから」が60代以上の年代に比べ高い。

【問】地域活動に参加していない理由はなんですか。（複数回答）



第15回
平成25年度岡山市市民意識調査
N=1,216

調査日：平成25年8月22日～9月20日
調査対象：住民台帳から無作為抽出した
20歳代以上の5,000人
回収：2,525人（回収率20.5%）

注）年代別の表は、全体を100とした
場合の割合

ESD推進の基盤が充実した岡山地域

○岡山地域は、国連大学と連携した「ESD推進のための地域拠点(RCE)」に2005年、世界で最初に認定されるとともに、10年間に及ぶ公民館の取組、ユネスコスクールを中心とした学校での取組、ユネスコスクールを支援する大学間ネットワーク(ASPUnivNet)への参加大学(岡山大学)の存在など、ESDを進める基盤が充実している。

●国連大学ESD推進のための地域拠点(RCE)

岡山、仙台広域圏、兵庫-神戸、横浜、中部、北九州 6地域 (世界135地域)
 ※RCE岡山の参加団体数 228団体(2015.4月)

●公民館におけるESD関連事業の実施率 岡山市100%

公民館を拠点とするESD活動が推進されている。

●ユネスコスクール

岡山市51校(申請中を含む) ※全国913校(2015.4月)

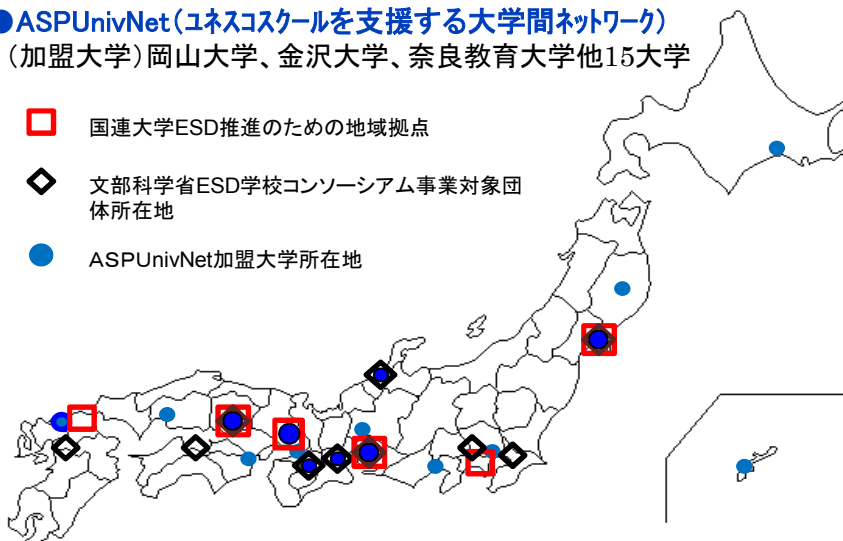
●文部科学省 ESD学校コンソーシアム

(グローバル人材育成のためのESD推進事業対象団体)
 岡山市教育委員会、中部大学、法政大学
 千葉大学、新居浜市教育委員会 他5団体

●ASPUnivNet(ユネスコスクールを支援する大学間ネットワーク)

(加盟大学)岡山大学、金沢大学、奈良教育大学他15大学

- 国連大学ESD推進のための地域拠点
- ◇ 文部科学省ESD学校コンソーシアム事業対象団体所在地
- ASPUnivNet加盟大学所在地



<国内の取組>

●ESDの推進に関する条例の制定 全国で岡山市のみ

※正式名称「持続可能な開発のための教育の推進に関する条例」
 愛称「E(えーものを)S(子孫の)D(代まで)条例」(第3条)

●ESD担当部署を設置している自治体 岡山市と北九州市のみ

●ESD認知度

[岡山市] ESDを知っている 15.4% 岡山市市民意識調査(2013)
 [全 国] ESDを知っている 2.7% 言葉は聞いたことある 16.4%
 内閣府(2014)



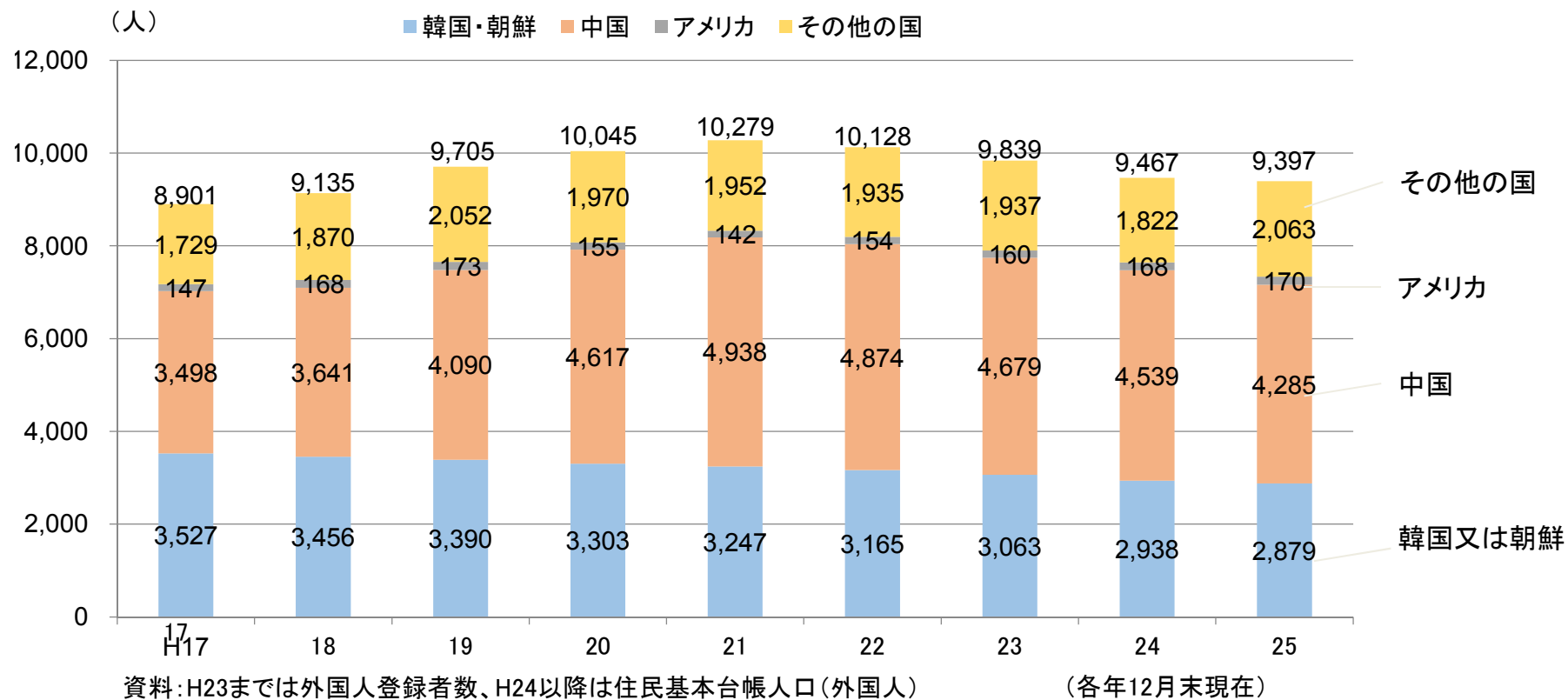
岡山市の国際友好交流都市・地域

○岡山市は8つの国際友好交流都市・地域と交流している。



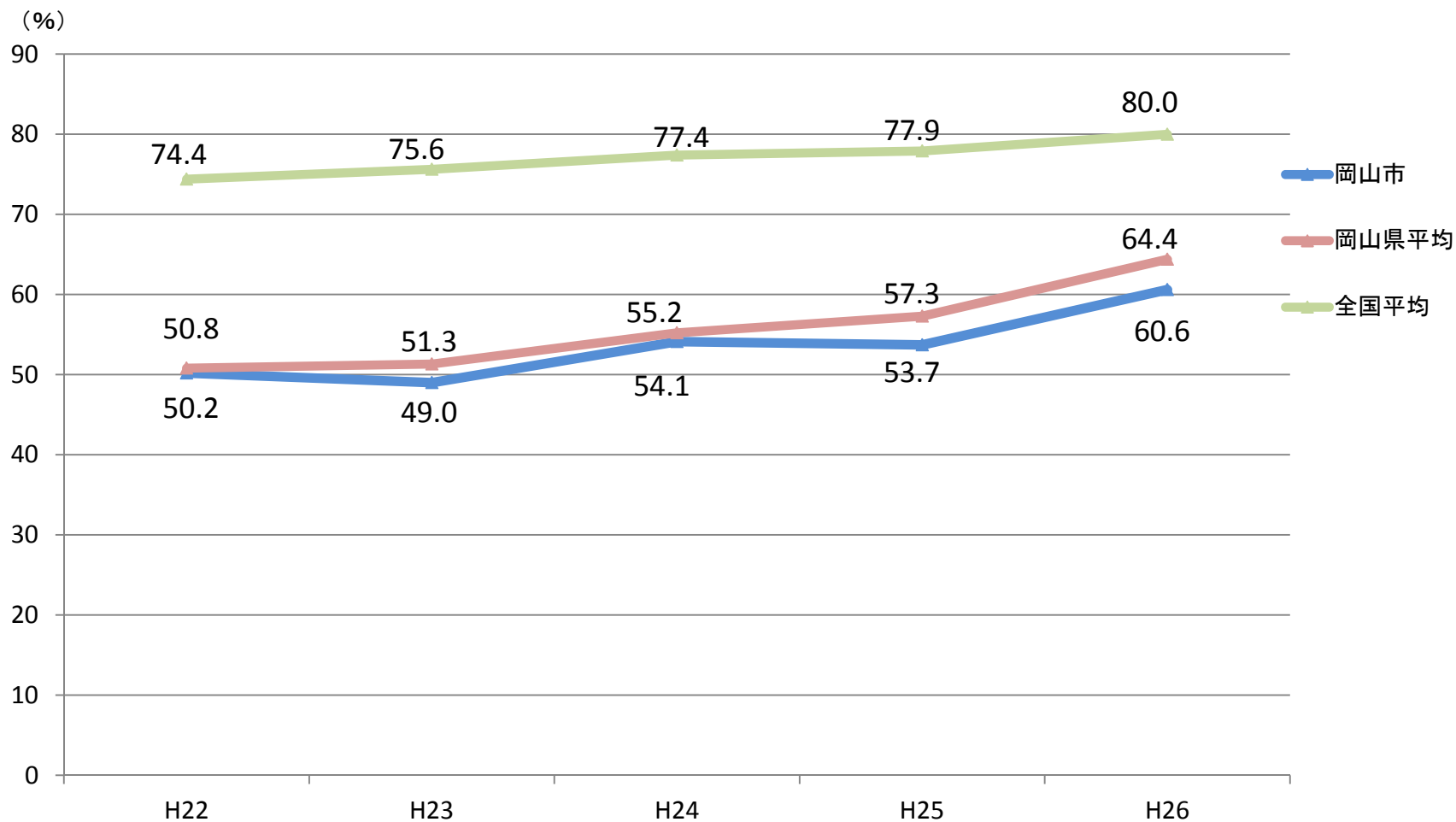
岡山市における外国人人口の推移

- 外国人人口は、概ね横ばいで推移。
- 国籍では、中国が最多、しかし、平成21年をピークに減少。
- 韓国・朝鮮は平成6年をピークに減少が継続。



岡山市の自主防災組織の組織率の推移

○岡山市の自主防災組織率は、東日本大震災を契機とする防災意識の高まりから、平成24年に向上した。また、平成25年度に小学校区毎の市民説明会を行ったことから、平成26年に組織率は向上した。○しかしながら、全国と比べると依然として低い状況である。



※平成24年から平成25年にかけての組織率の低下は、平成24年7月9日に住民基本台帳法が改正され、外国人世帯を世帯数に計上することになった影響によるもの。

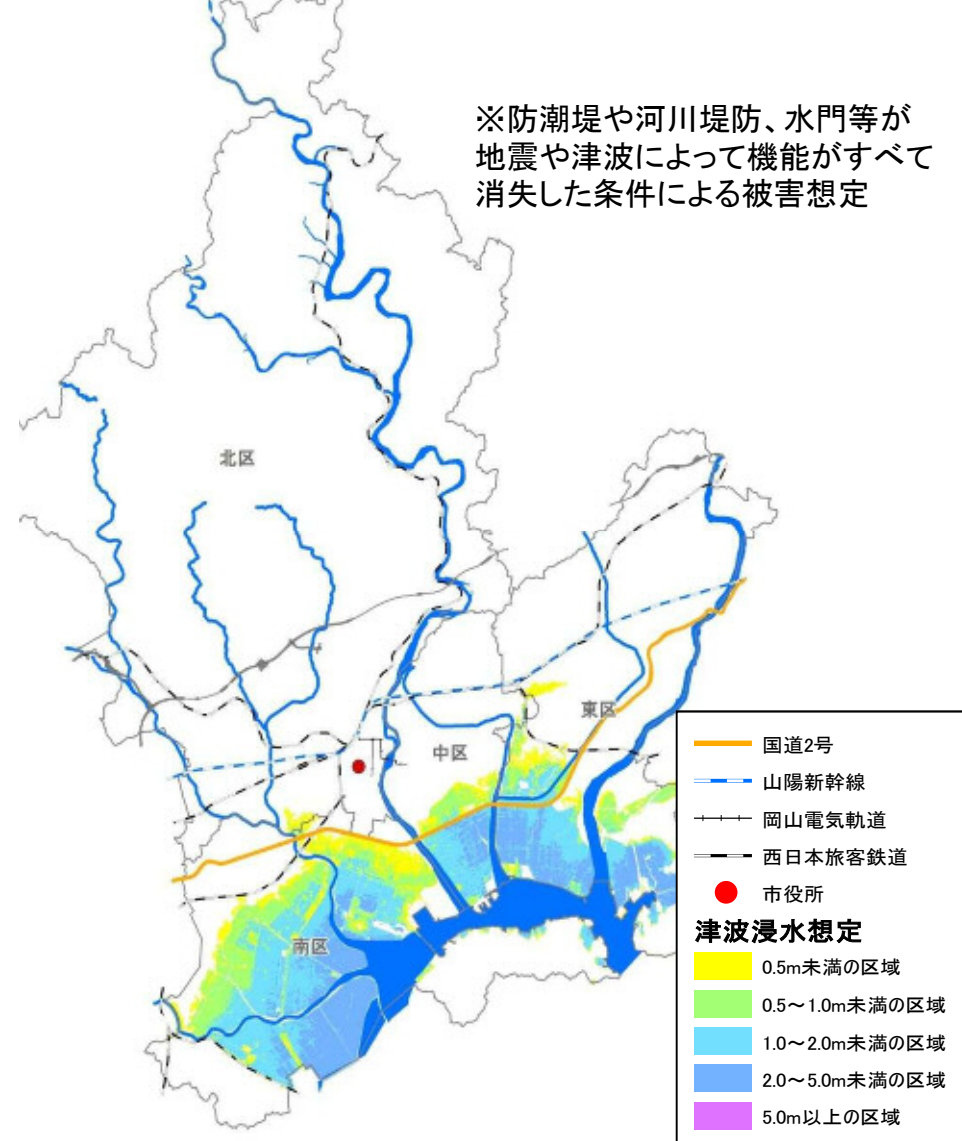
南海トラフ巨大地震による岡山市の被害想定

○地震は最大震度6強を、津波は南区小串で最大2.6m(海拔高)を想定している。

【震度分布図】



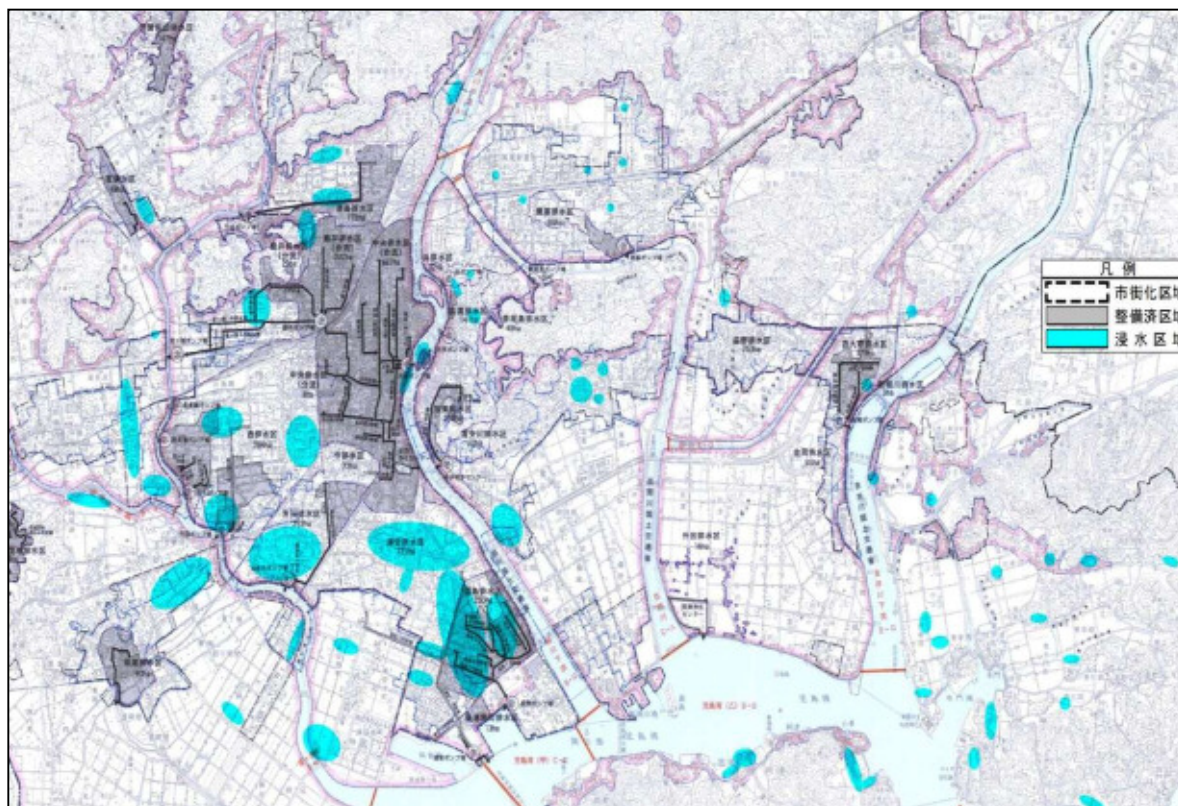
【津波分布図】



岡山市の浸水被害の状況

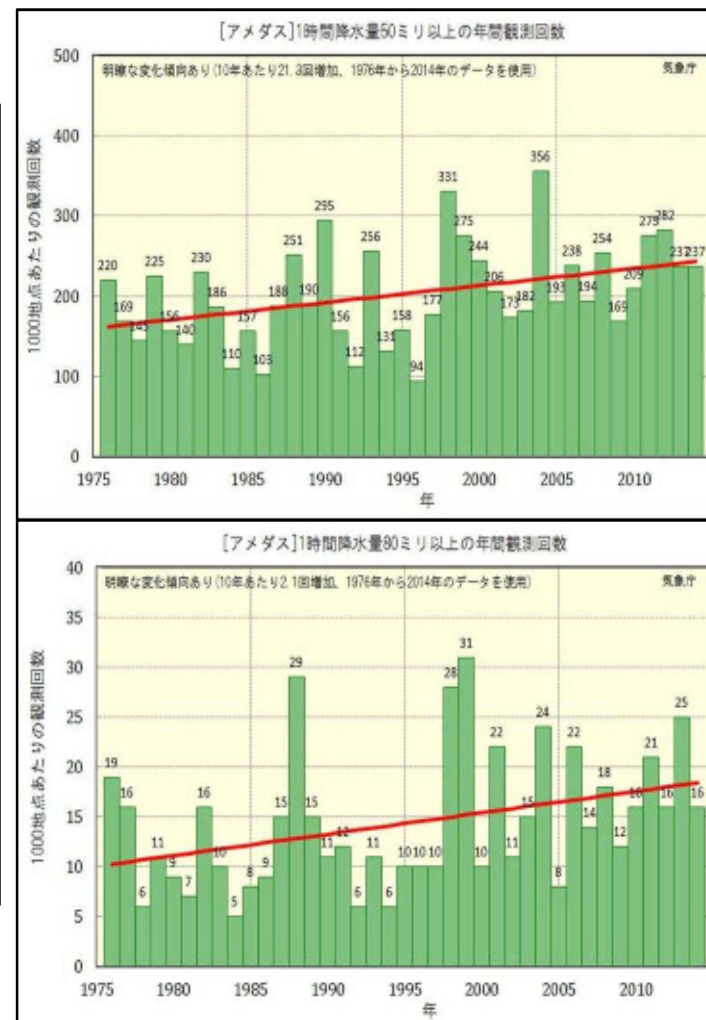
○平成23年の台風12号では、過去最大級の降雨により床下浸水4,445世帯、床上浸水135世帯の大きな浸水被害が発生した。
 ○近年、台風が大規模化するとともに、全国的に短期間集中豪雨が増加している。

平成23年の台風12号による浸水発生地区



資料：岡山市

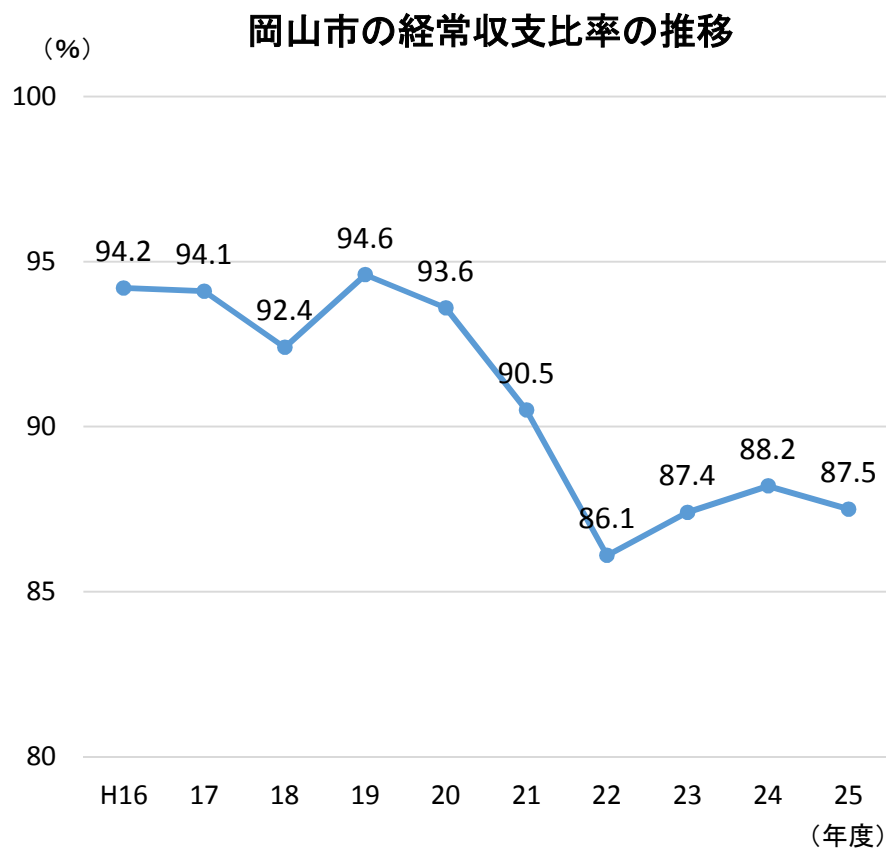
短期間集中豪雨発生回数(全国)



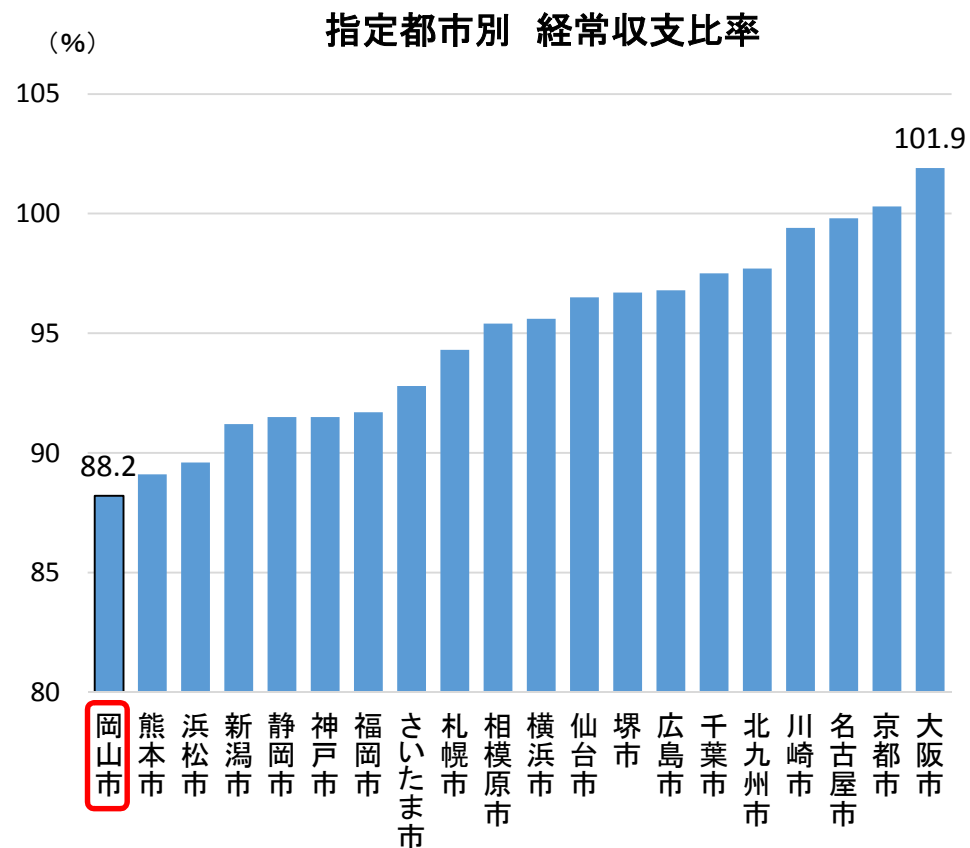
資料：気象庁ホームページより

岡山市の経常収支比率

- 経常収支比率の推移をみると、平成22年度に90%を下回って86.1%となり、その後も80%台後半で推移。
- 経常収支比率は、指定都市20市の中で、最も低い。



資料:岡山市財政課



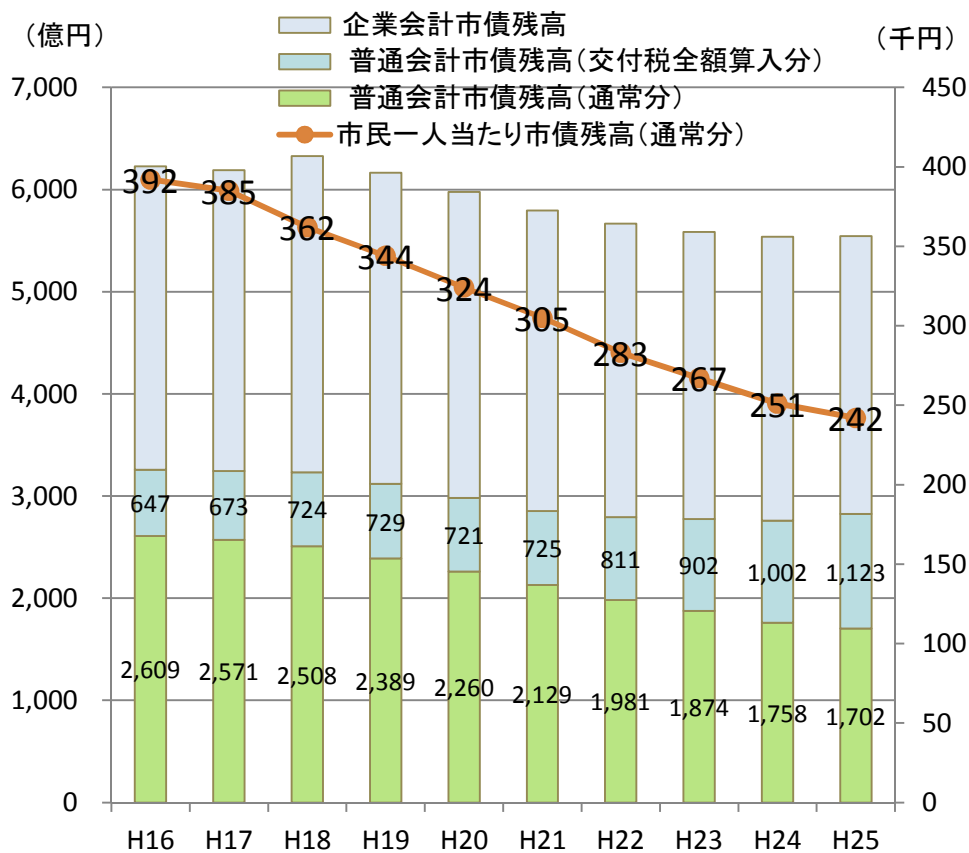
資料:総務省「H24年度市町村決算カード」

経常収支比率: 人件費や公債費など経常的な支出に対して、市税などの経常的収入がどの程度充当されているかを示すもの。比率が低いほど弾力性が大きく、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを示す。

岡山市の市債残高

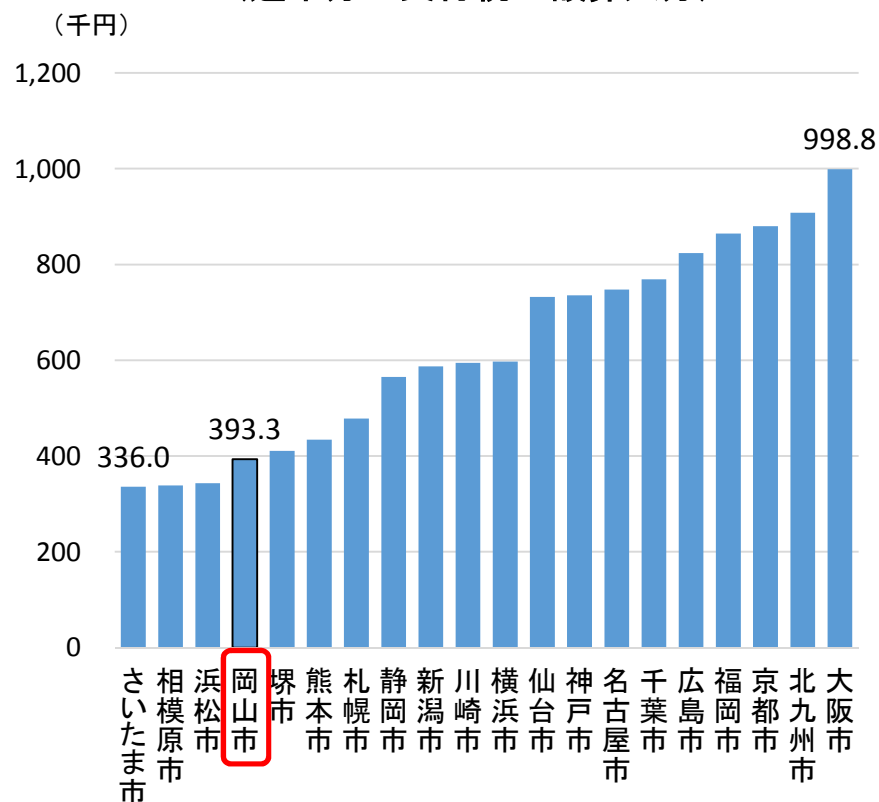
○企業会計を含めた市債残高は、平成20年度以降6,000億円を下回っている。市民一人当たりの市債残高(通常分※)は、着実に減少しており、平成25年度末では242千円。
○市民一人当たりの普通会計市債残高は、岡山市は指定都市の中で4番目に少ない。

岡山市の市債残高の推移



資料: 岡山市財政課

指定都市別 市民一人当たりの普通会計市債残高 (通常分+交付税全額算入分)



資料: 総務省「H24年度市町村決算カード」「住民基本台帳人口」をもとに作成

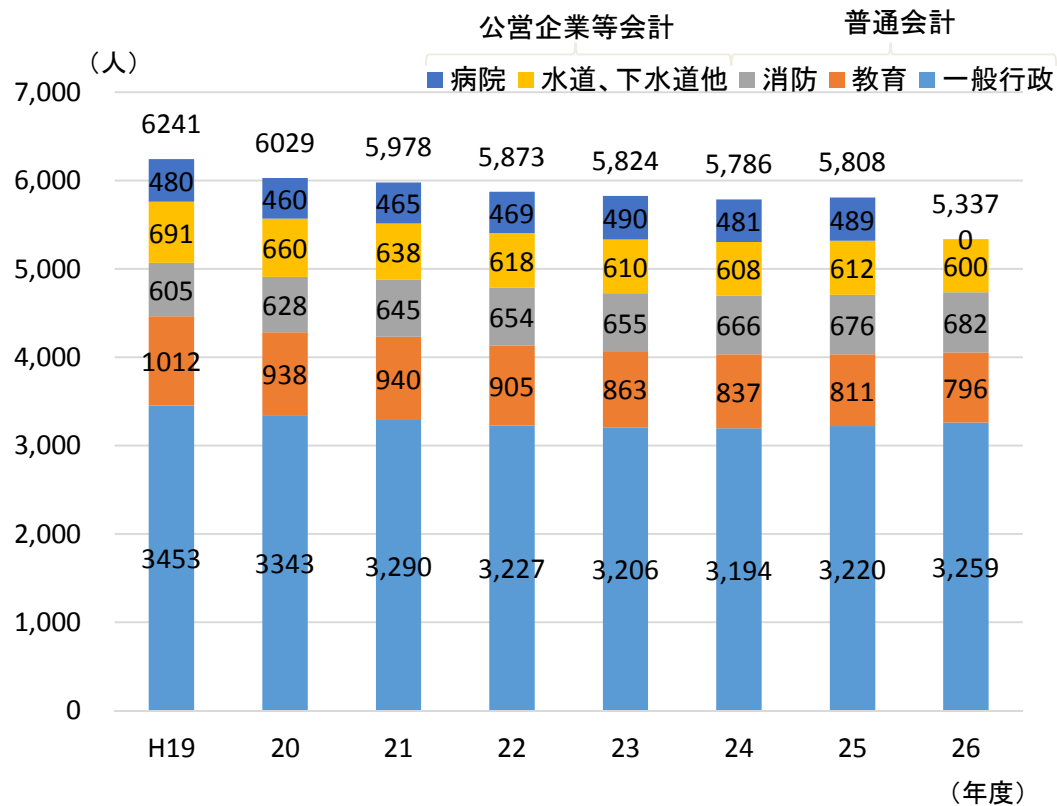
※市債残高の通常分とは、元利償還金の全額が地方交付税に算入されるものを除いた実質的な借金のこと。

岡山市の職員数



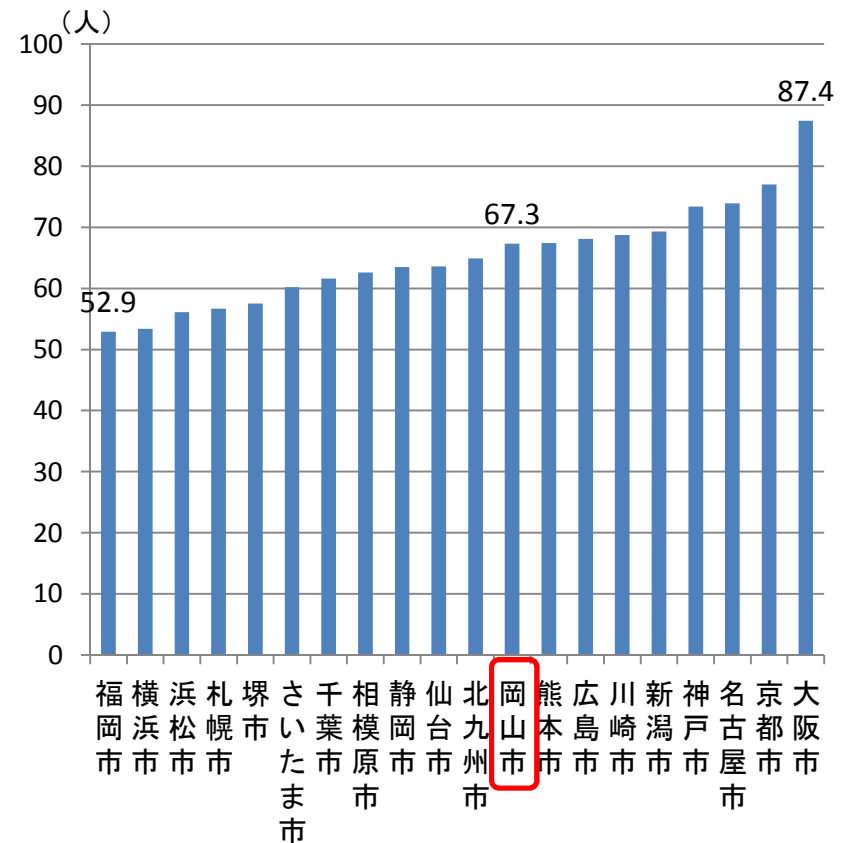
○職員数は、平成19年～24年度にかけて着実に減少した後、平成25年度は若干増加。平成26年には、市立病院の地方独立行政法人への移行や行財政改革を実施したことにより、平成25年から471人減少。
○市民一人当たりの職員数(普通会計)は、岡山市は指定都市の中で中位。

岡山市の職員数の推移



資料:総務省「地方公共団体定員管理調査結果」

指定都市別 市民1万人当たりの職員数(普通会計)



資料:総務省「H26年地方公共団体定員管理調査結果」
「住民基本台帳人口」をもとに作成

- 公共施設等のハコモノの約4割が旧耐震基準で建築されており、引き続き使用する施設についての耐震化が必要。
- 建築後30年以上を経過している施設が半数を超えており、近い将来、大規模改修及び更新の時期が集中することが見込まれている。

ハコモノの建築年別の整備状況と主な内容（公営企業の施設を除く）

